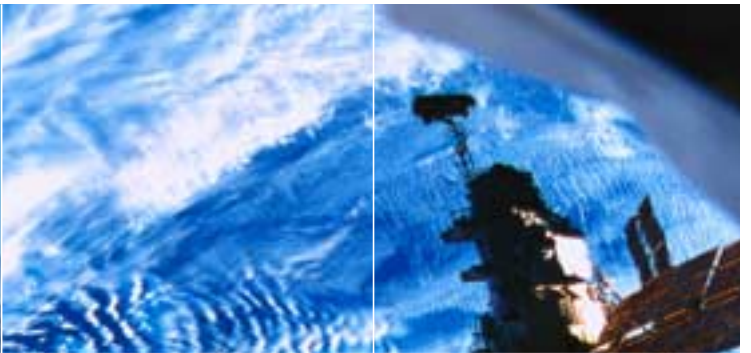


ESPEC

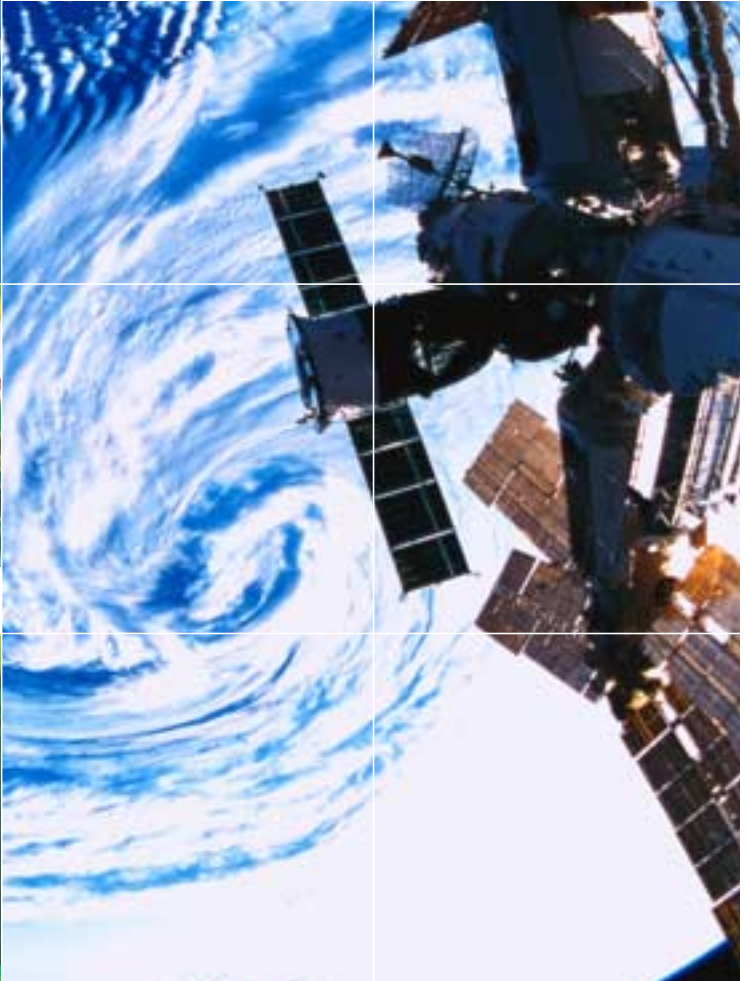
Corporate
Social
Responsibility

REPORT 2007

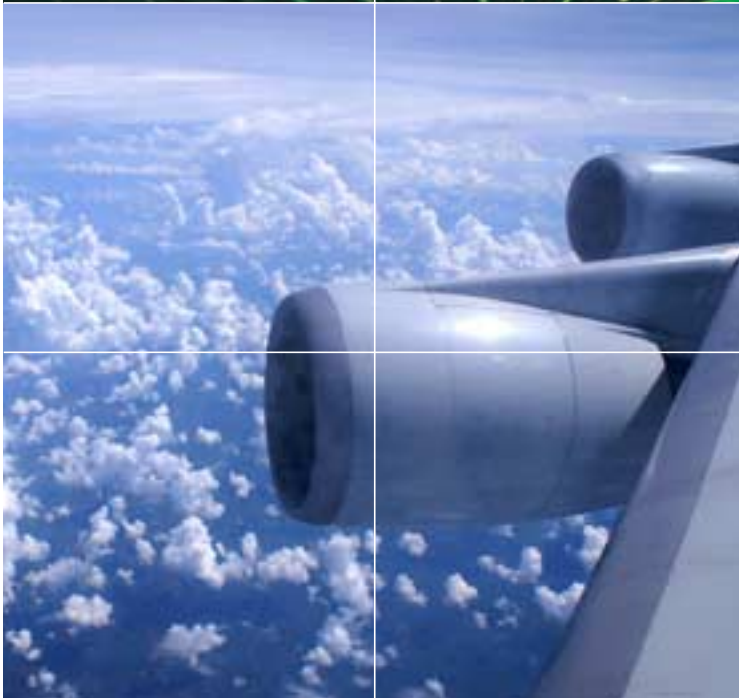
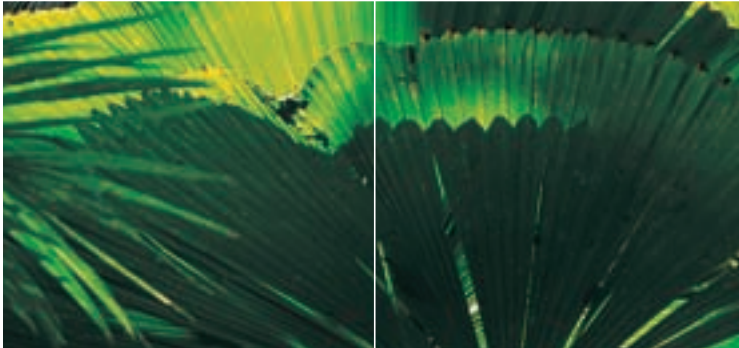




さまざまな環境を創り、



モノづくりに活かす。



安全・信頼づくりは、エスペックから



会社概要

2007年3月31日現在

社名	エスベック株式会社
創業	1947年7月25日
設立	1954年1月13日
資本金	6,837百万円
証券市場	東証・大証一部上場(証券コード:6859)
従業員数	1,287名(連結)、605名(単独)

主な事業所

本社	大阪市北区天神橋3丁目5番6号
東京支社	東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟12階
営業拠点	仙台・さいたま・東京・名古屋 大阪・広島・福岡
工場その他事業所	福知山・宇都宮・東京・神戸
子会社および関係会社	国内6社、海外10社(詳細はP3参照)

営業概況

2007年3月期

	連結	単独
売上高	42,595百万円	29,204百万円
営業利益	3,930百万円	2,671百万円
経常利益	4,094百万円	3,111百万円
当期純利益	2,523百万円	2,152百万円
総資産	45,357百万円	37,656百万円
純資産	31,536百万円	27,219百万円
1株当たり純資産	1,327.87円	1,152.65円
1株当たり当期純利益	106.94円	91.22円
設備投資額	1,534百万円	650百万円
減価償却費	955百万円	658百万円
研究開発費	2,543百万円	2,273百万円

企業情報や業績についての詳細な内容については、当社ホームページ内の「企業情報」「投資家情報」をご覧ください。

編集方針

本誌は、エスベックのCSR活動をより多くのステークホルダーのみなさまにご理解いただくとともに、みなさまからのご意見・ご要望を経営にフィードバックすることで、さらなるCSR活動の質の向上を目的としています。

経済パフォーマンスの情報につきましては、ファクトブックをはじめとする各種IR資料でご覧いただけます。

また、当社は2006年度よりCSRサイトを新たに開設しており、こちらでもCSR情報の開示を行っておりますので、是非ご利用ください。

なお、本誌中の **WEB** は、当社ホームページ上で関連情報を開示している旨を示しています。

エスベックホームページ <http://www.espec.co.jp/>

準拠したガイドラインなど

- ・環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」
- ・環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」
- ・GRI(Global Reporting Initiative)「GRIガイドライン第3版(Sustainability Reporting Guidelines version 3.0)」

CONTENTS

What's ESPEC	3
トップメッセージ	7
特集1 事業活動による社会貢献	9
特集2 従業員への取組み	11
特集3 環境への取組み	13
経営・マネジメント	15
THE ESPEC MIND	16
CSR経営	17
社会性パフォーマンス	19
従業員とのかかわり	20
お客さまとのかかわり	23
株主・投資家さまとのかかわり	25
取引先さまとのかかわり	27
地域社会とのかかわり	28
環境パフォーマンス	29
環境マネジメント	30
グリーンプロダクト(環境に配慮した製品とサービス)	33
グリーンプロセス(環境に配慮した工程)	35
グリーンマインド(環境教育)	37
グリーンアクション(社会貢献)	38
物質フロー	39
実績データ	40
環境会計	41
エスベック環境写真・ポスターコンテスト／編集後記	42

対象範囲

【事業所の対象範囲】

国内エスベックグループの主要な事業所を対象としています。

【事業の範囲】

エスベックの事業は環境試験事業(環境試験器、アフターサービス、受託試験等)、電子デバイス装置事業(FPD装置、半導体装置)、その他事業(環境エンジニアリング、新規事業)であり、これらの事業活動全般について報告しています。

【対象期間】

主に2006年度(2006年4月1日~2007年3月31日)を対象期間とし、過去より継続して実施してきた内容および直近の内容についても時期を記述した上で、掲載しています。

発行時期

毎年6月末頃(年1回)発行

私たちは、社会の安全・安心を支える、環境創造

エスペックの「環境創造技術」は、暮らしを支えるさまざまな製品の安全・安心をお届けしています。

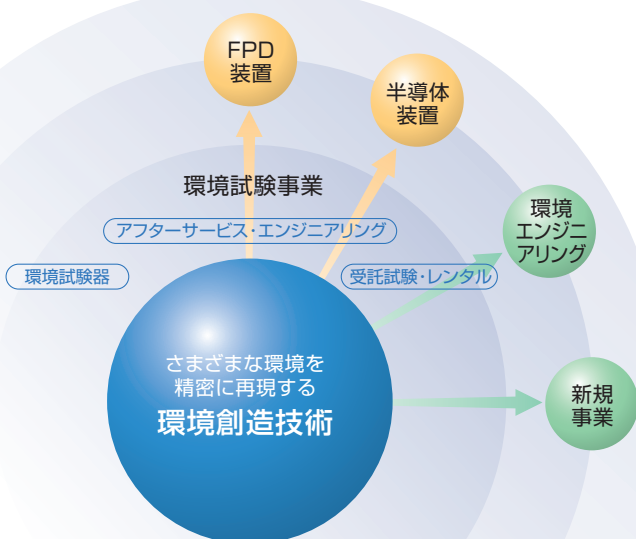
携帯電話やデジタルカメラ、パソコン、テレビなどのデジタル家電製品は、もはや私たちの生活になくしてはならない存在。また、自動車や航空機にもたくさんの電子部品が使用されています。これらの工業製品はどのような環境で使用しても、正常に機能することが求められており、ここで重要な役割を果たすのがエスペックの環境試験器です。人工的に温度、湿度、圧力、振動といった「環境」を精密に再現し、それらが製品に及ぼす影響を分析・評価することで、暮らしと社会の安全・安心を支えています。

NO.1ブランドは世界のお客さまからの信頼の証です。

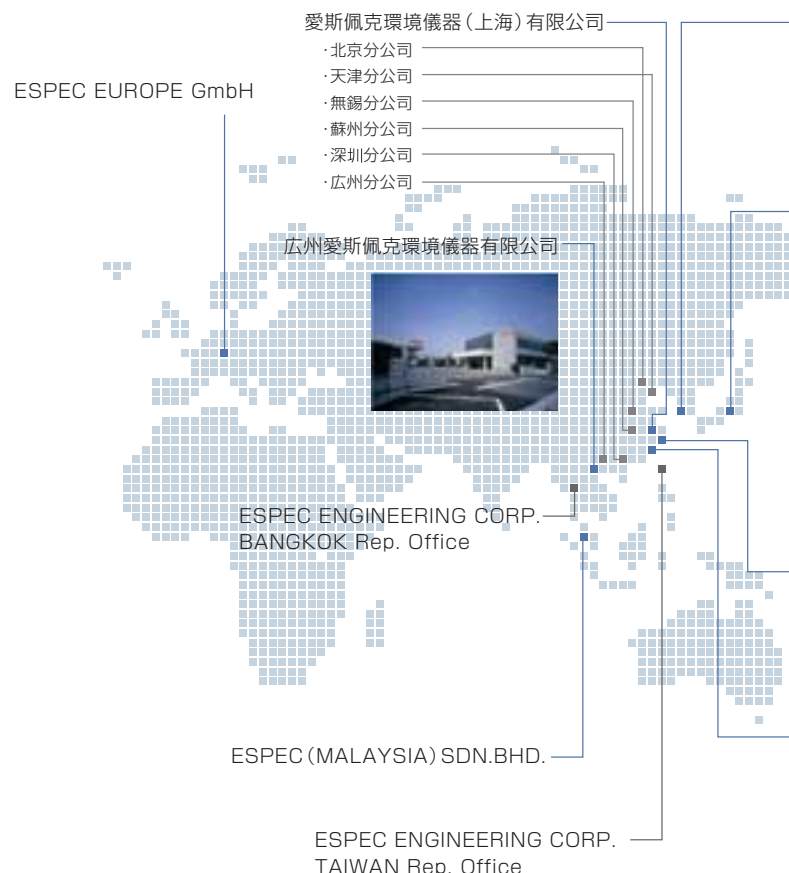
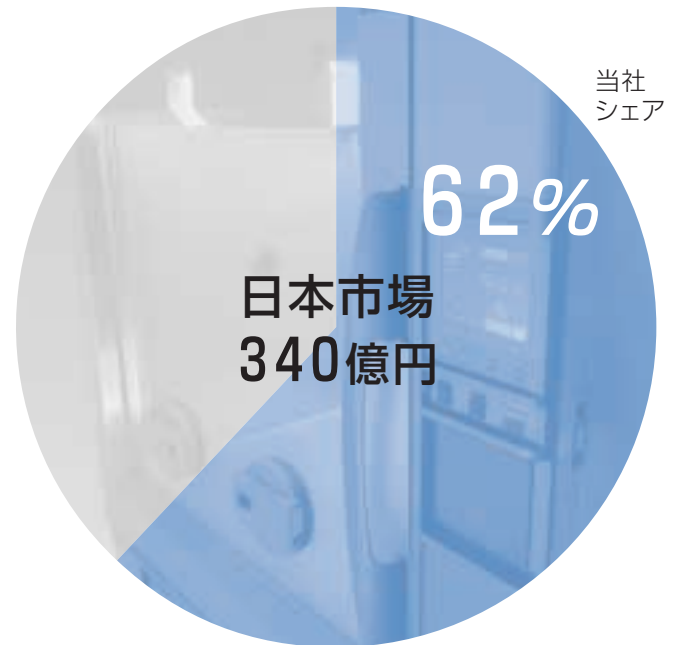
1961年に日本ではじめて環境試験器を開発した当社は、環境試験市場において、国内62%、世界31%と、他社を寄せ付けない圧倒的なシェアを誇る世界NO.1メーカーです。長年培ったノウハウと優れた技術、そして、世界のお客さまへのきめ細やかな対応を可能とする充実したネットワーク。「エスペック」ブランドは世界のお客さまから高い信頼を得て、その地位を確固たるものにしていきます。

「環境創造技術」を要として、エスペックのフィールドは拡がり続けています。

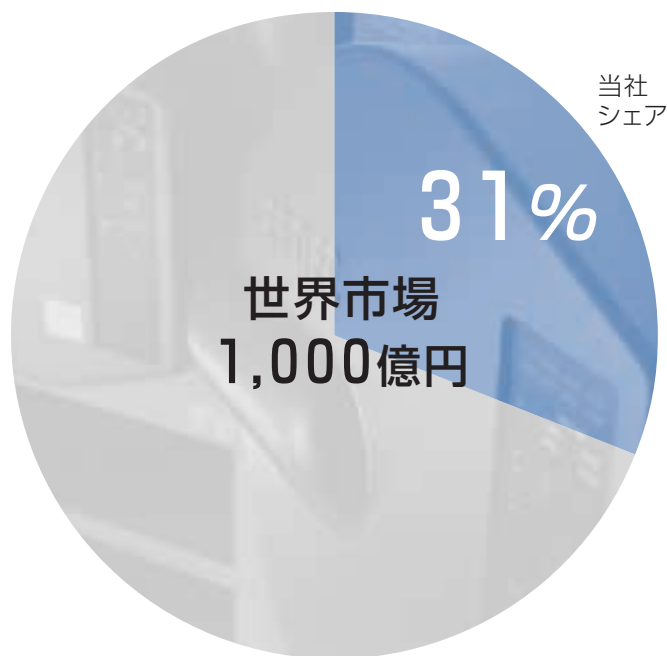
エスペックは環境試験で培った「環境創造技術」を要に、液晶などの生産ラインの熱処理工程で使われるFPD装置や、半導体の生産・検査工程における半導体装置、環境の創造や修復を実現する環境エンジニアリングなどに事業を展開しています。さらに、成長性と収益性が期待できる分野での新規事業開発を推進するなど、エスペックの活躍するフィールドは拡がり続けています。



環境試験市場



技術の世界No.1ブランドです。



当社
シェア

当社推定(2005年度)

ESPEC KOREA CORP.



ESPEC EVALUATION & TEST SYSTEMS, INC.

エスベック株式会社



エスベックエンジニアリング株式会社
エスベックテストセンター株式会社
エスベックテクノ株式会社
エスベックセミテクノロジー株式会社
エスベック九州株式会社
エスベックミック株式会社

ESPEC NORTH AMERICA, INC.



愛斯佩克测试科技(上海)有限公司



上海愛斯佩克環境設備有限公司



販売代理店(2007年4月1日現在)
国内:48社 海外:29社(40カ国)

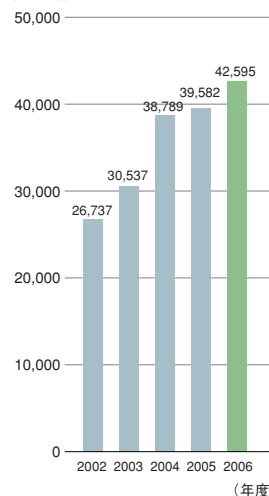
これからも社会の高まる期待に応え、さらなる飛躍を目指します。

より快適で安心な暮らしの実現。こうした社会の高まるニーズを背景に、私たちを取り巻くさまざまなエレクトロニクス製品は急速にIT化、電子化が進んでいます。エスベックはこれら製品の「最高のモノづくり・品質づくり」を支え、安全と安心をお届けするという社会的責任を自覚し、さらなる飛躍を目指していきたく考えています。

[連結業績の推移]

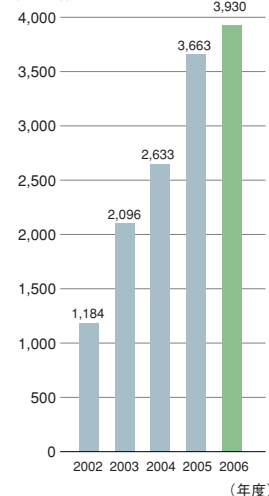
売上高

(百万円)



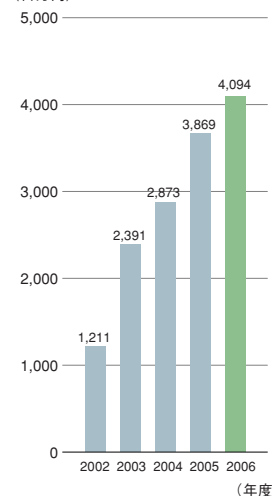
営業利益

(百万円)



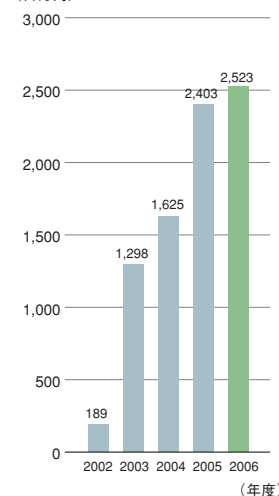
経常利益

(百万円)



当期純利益

(百万円)



エスペックは、技術の進歩・産業の発展に貢献し

環境試験事業	<h3>環境試験器</h3> <p>温度や湿度、圧力、振動などを高精度に制御して、あらゆる環境を人工的に再現する環境試験器。高品質で安全性の高い製品の研究開発に役立てられています。</p>			
	<h3>アフターサービス・エンジニアリング</h3> <p>環境試験器のメンテナンスサービス、機器・装置の設置、移設、周辺機器の販売などでお客さまをサポートしています。</p>			
	<h3>受託試験・レンタル</h3> <p>お客さまに代わって試験を行う受託試験。プロならではのノウハウと充実した設備でお客さまのニーズにお応えしています。機器のレンタル等のサービスも行っています。</p>			
電子デバイス装置事業	<h3>FPD 装置</h3> <p>液晶やプラズマなどのFPD（フラットパネルディスプレイ）の生産ラインにおける、クリーン熱処理装置および検査装置を提供しています。</p>			
	<h3>半導体装置</h3> <p>半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システム、半導体の検査工程におけるパーイン装置および製造工程における半導体洗浄装置を提供しています。</p>			
その他事業	<h3>環境エンジニアリング</h3> <p>森づくり・水辺づくりに加え、都市緑化や環境測定など、環境の創造や修復に関わる事業を展開しています。</p>			
	<h3>新規事業</h3> <p>今後成長性と収益性が期待できる分野を対象に、新たな事業の開発・創造を推進しています。</p>			

ています。

1961年に日本で初めて開発に成功して以来、国内外から高い評価を得ている当社の環境試験器。世界の恒温恒湿器のデファクトスタンダードといわれる「プラチナスKシリーズ」をはじめ、「冷熱衝撃装置」や「急速温度変化チャンバー」、自動車などにも対応できる大型の「恒温(恒湿)室 ビルドインチャンバー」等、多彩な製品ラインナップでお客さまのご要望に的確にお応えしています。



恒温(恒湿)器 プラチナスKシリーズ



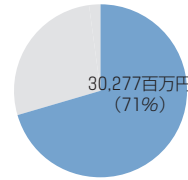
恒温(恒湿)室 ビルドインチャンバー



冷熱衝撃装置 TSAシリーズ 急速温度変化チャンバー TCC-150W

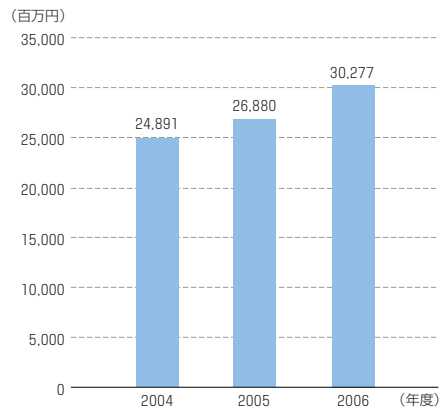


受託試験所



2006年度 売上高構成比

売上高の推移

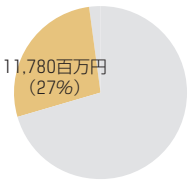


環境試験器で培った、高度な温度制御やクリーン化などの環境創造技術を、FPDや半導体の製造・検査領域で展開しているのが、電子デバイス装置事業です。

FPD装置では世界No.1シェア。高い生産性・低コスト・高性能へのニーズにお応えしています。また、年々拡大するLCDの次世代サイズへの対応もいち早く実現しています。半導体装置では、①半導体評価・検査装置と②半導体洗浄装置の二つの領域で、製造・検査工程の信頼性や歩留まりの向上、効率化、低コスト化などのニーズにお応えしています。

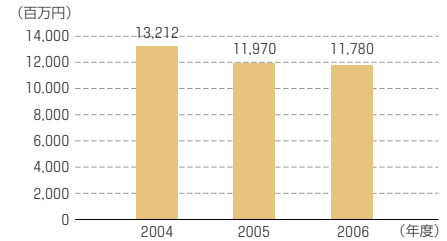


枚葉式クリーンオープン HSC-9



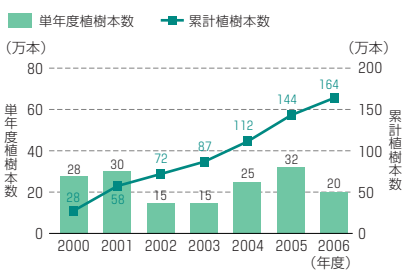
2006年度 売上高構成比

売上高の推移

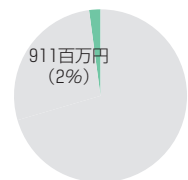
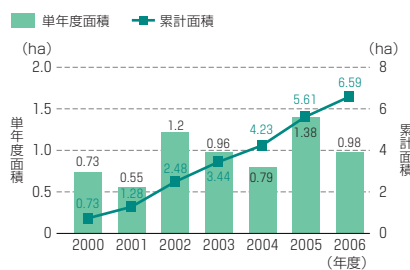


「エスペックミック株式会社」ではその土地本来の植生にあった植樹による「森づくり」や自然の河川を取り戻す「水辺づくり」など、自然を再生し、復元する事業を展開。植樹本数は、現在では累計160万本にも上ります。

森づくり

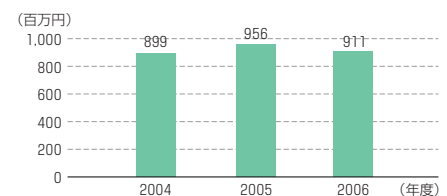


水辺づくり



2006年度 売上高構成比

売上高の推移



※当社は2006年度より事業セグメント区分の変更を行っております。2004年度、2005年度の各事業の業績はセグメント変更後の新基準に置き換えた参考値を記載しております。

優れた製品・サービスの提供により、お客さまに感動を。 エスペックは、さすがと言っていただけ「世界優良



私たちの経営の根幹には、創業以来のCSRの思想があります。

エスペックは創業以来、現代のCSRに通じる考えを経営の根幹に持っています。創業者の田葉井五郎は「マイカンパニーでなく、ユアカンパニーでなければならない」と常に言っていました。創業7年目に株式会社に改組したのも、資金の調達や創業者利益のためではなく、株式を公開することで、「社会の公器」として存在価値を高めていきたいという想いに駆られてのことでした。

「社会の公器」という思想とともに大切にしていたのが「ひと味違うことを、一足早く」ということです。この言葉もまた進取の精神を持って、独自性を追求し、新たな価値を創出することで、社会に貢献するという、CSRに通じる考え方を表現しています。

エスペックの価値観を体系化して社員全員で共有しています。

エスペックの企業理念ともいうべきこうした価値観を体系的にまとめたのが1999年制定の「THE ESPEC MIND」です。

その中心にある思想は、企業は「社会に価値を提供し続ける存在」でなければならないということ。つまり、人の幸せに貢献しなければ、会社の意味がないというものです。その内容は「起点」にはじまり「運営理念」、「経営者の条件」など多岐にわたりますが、その中の「宣言」（右上）では私たちエスペックの全員が尊重すべきものとして「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」の5つを明確に定めています。

そして、重要なのは、この「THE ESPEC MIND」がすべての役員・従業員に共有され、経営計画や実際の企業活動の中で実践されているということです。

目指すのは、世界優良企業/環境先進企業です。

「THE ESPEC MIND」の精神を具現化するものの一つが、2006年度から2010年

のじいすずむ
代表取締役社長 野路井・達

■経営革新計画「エスペックGカンパニープラン」の目標



企業」「環境先進企業」を目指しています。

度までの経営革新計画「エスペックGカンパニープラン」です。

Gカンパニープランでは、目標を「価値交換性の高い世界優良企業」「環境先進企業」と定め、「Good」「Global」「Green」の3つの側面から目指す企業像・あるべき姿を明確にしています。(左下図)

「価値交換性が高い世界優良企業」とは、徹底したお客さま視点により、質の高い経営、製品・サービスなどの価値創造を行い、その価値をステークホルダーと互いに交換し、高めあうことで、お客さまに感動を与え、さすがと言っていただける企業になるということです。もちろん、「世界優良企業」というからには、業績・成長力でも世界に誇れるものにしていく必要があります。そして、「環境先進企業」とは、いかに環境に役立つかという高い視点で地球環境保護・改善に貢献していく企業を意味しています。

業績目標としては、2005年度実績の2倍以上となる「売上高800億円以上」「営業利益80億円以上」(2010年度)を掲げました。この高い目標達成に向け、企業体質を転換し、顧客価値の向上と成長のための基盤づくりを行う「2つの改革」と、未来を切り開く成長戦略「4つの開発」に全社一丸となって取り組んでいます。(右下表)

「人」を基軸とする経営で 目標を実現していきたい。

「Gカンパニー実現の鍵」と私が考えているのが、「人」です。エスペックで働くすべての人に満足してもらえなくて、どうして他のステークホルダーの期待に応えることができよう——これが私の考え方です。

技術開発も、市場開発も、優れた製品やサービスの創出も、コンプライアンスも、従業員一人ひとりが、個性と能力を発揮して初めて実現するからです。高い顧客価値も、高業績もそうした「人を基軸とする企業文化」から生まれるからです。

エスペックで働くことを通じて、自らの個性と能力を最大限に高め、自己実現を果たす。そのために「人材開発」のさまざまな取組み

THE ESPEC MIND・宣言

エスペックは、
良き社会の一員として存在することを宣言する。
そのために、経営において、活動において、
私たち全員が尊重すべき事柄を明らかにし、
その実践を誓うものである。

まず、遵法。

エスペックは、活動を行う国々や地域において定められた法律を順守する。
さらには、国々、地域間における法律上の格差が認められる場合には、
より社会性の高い内容を定めた法律の適用を自らに課すこととする。

二つ目に、文化。

エスペックは、活動を行う国々や民族の文化を尊重する。
悠久の時を経て、築きあげた今日の文化や道徳的・倫理的規範に敬意を払い、
むしろそこに深く立脚することによって、
その地の良き一員となることを目指す。

三つ目に、人権。

エスペックは、人々にあまねく備わっている
「人として尊厳を持って生きる権利」を決して侵さない。
尊厳を持つ人の集まりである企業の中で、いかなる侮蔑や差別も許してはならない。
そして、そのままざしは世界という広がりを持つものである。

四つ目に、環境。

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、
という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役に立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

最後に、啓発。

エスペックは、これらを単に宣言にとどめず、
あらゆる機会を創出し啓発を行う。
特にエスペックを構成する各層の人々に対し、
この宣言の持つ意義を啓発、教育し、
良き社会の一員としての誇りを共有しようとするものである。

を通じて、「プロフェッショナル人材」を育てていきたいと考えています。そして、エスペック全体を人が中心の「学ぶ組織」「成長する組織」に高めていくことで、企業の活力を高め、Gカンパニープランを達成に導いていきたいと考えています。

*

このたび発行した「ESPEC CSRレポート」は、こうした考えに基づいた当社の取組みを一人でも多くの方にご理解いただき、ご意見・

評価をいただくためにまとめました。「事業活動による社会貢献」、「従業員への取組み」、「環境への取組み」は、それぞれ特集として取りあげ、当社の活動を包括的にご理解いただけるようにしました。

ご意見・評価は、これからのエスペックの活動に反映させることで、みなさまからの信頼をさらに高めていきたいと考えています。

より一層のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

●未来を切り開く成長戦略～4つの開発

技術開発	エスペックの未来を担う新技術・新製品の開発
人材開発	高度な知識と技術を持つプロフェッショナル人材の育成
事業開発	成長を牽引する新しい事業モデルの開発と創造
市場開発	新規・成長市場への積極的展開によるグローバルシェアの拡大

●企業体質を転換し、顧客価値の向上と成長の基盤づくりを行う～2つの改革

モノづくり改革	「品質向上」「コスト削減」「納期短縮」による顧客価値、事業収益の向上
オペレーション改革	顧客への対応品質の向上、全社生産性2倍(2001年度比)の実現

環境試験器&サービスの提供を通じ、クルマ



執行役員

営業本部長 曾田 聖二

自動車の安全性・信頼性に 環境試験が貢献しています。

いまや現代社会において欠かすことのできない自動車。私たちは、どんな雨の中、酷暑の中、雪や極寒の中でも、何も気にせず、安心して快適にクルマを走らせています。

しかし、こうした暑さや寒さ、湿気などの環境は、徐々にクルマの性能を低下させ、寿命を縮ませる可能性を持っています。特に、エンジンルームなどは、急激な温度変化や結露、エンジンなどが発する熱、絶え間ない振動など、自動車とその部品は、一般の人が想像する以上に過酷な条件にさらされています。

しかも、現在では自動車は「走るコンピュータ」と言っても過言ではありません。安全、快適なドライブの実現、また、低排出ガスや省エネなどのエコカーの関心が高まり、障害物を感知する車載センサーや後方をモニターに映し出すCCDカメラ、カーナビシステムなど、搭載される電子部品は大きく増加しています。これら電子部品も、どのような環境下でも正常に本来の機能を果たすことがより一層強く求められています。

自動車や電子部品は、実際に走行する環境

下でどのような影響を受け、どのように品質や性能を変化させるのか——さまざまな環境を人工的に再現し、それらの品質や信頼性を事前に評価・分析するために使われているのが、エスベックの環境試験器です。

自動車はどこかがおかしくなったら、人命に直結する危険性を秘めたもの。そのため、多様な環境下でも安全性や信頼性がきちんと保たれるのか、経年変化による部品交換のタイミングはどれくらいなのか——そうしたことがきちんと環境試験によって検証されて初めて、人は安心してクルマに乗れるのです。

このように、エスベックの環境試験器は、クルマ社会の安全・安心を研究・開発段階から支えるという重要な役割を担っているわけです。

トップブランドとしての 高い信頼と期待に応えていきます。

エスベックは環境試験市場でのトップブランド。国内62%、世界31%のシェア（2005年度）を誇る世界No.1メーカーです。

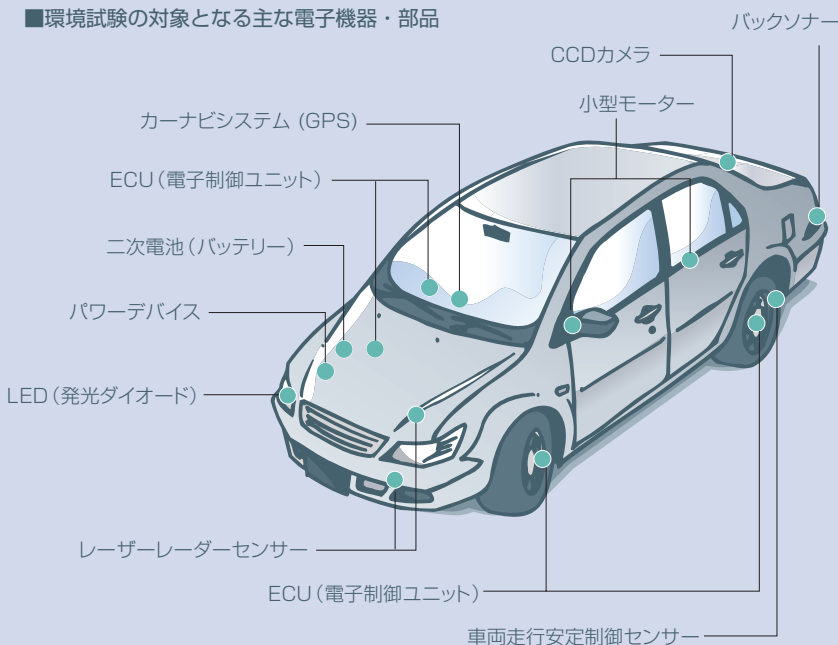
私たちの強みは、まず、経験に裏付けされた高い技術力です。温度や湿度、圧力、振動などさまざまな条件のシミュレーションをしたい。温度の上昇・降下の時間・スピードを緻密にコントロールしたい。一定の環境下で長期にわたって精密な試験をしたい。……

エスベックは、自動車メーカーや多くの部品メーカーからのこうした高度なニーズに対し、高精度な制御技術であらゆる環境を忠実に再現する環境試験器でお応えしています。

第二の強みは、トップブランドならではの販売・生産体制。ワールドワイドに多くの販売拠点を展開するほか、アメリカ・中国・韓国にも生産工場を持っており、グローバルに事業を展開するお客さまからのさまざまな要望に対して、スピーディに対応することができます。

第三の強みは、充実したアフターサービス体制です。研究開発や生産工程で使われている当社製品は、どんな些細なトラブルもお客さまの貴重な時間やコストのロスにつながりかねません。なかには数千時間もかかる

■環境試験の対象となる主な電子機器・部品



マ社会の安全・安心を支えています。

試験もあり、万一、試験途中で環境試験器がトラブルを起こしたら、それまでの試験結果はすべてムダになってしまいます。そうならないように、高品質の製品を提供することはもちろんですが、エスベックでは全国に広がる充実したサービス網や24時間フルタイム技術対応サービスにより、3日以内に突発故障の約90%を修理するなど、当社の迅速な対応は、お客さまに安心と安全をお届けしています。

こうした当社の優れた技術や製品、充実した販売・生産・サービス体制は、多くのお客さまから高い信頼と評価を受け、確固たる地位を確立しているのです。

お客さまの「良きパートナー」として 真のプロフェッショナルを目指します。

製品の性能や品質、販売・サービス体制などともに求められるのが、環境試験のプロフェッショナルとしてのソリューションです。当社では長年培ってきた技術やノウハウをベースに、環境試験器の販売だけにとどまらず、お客さまに代わって試験を行う受託試験やコンサルティングなども行っています。昨年は、自動車関連メーカーから試験需要が拡大している名古屋地区に、国内最大級の受託試験所（豊田試験所）を開設しました。

また近年では、パソコンや家電製品などの電気・電子機器に、環境や人体に有害な化学物質を使うことを禁止するRoHS指令が注目されており、いまや国内だけでなく、中国や欧州などでも適用が拡大しています。この規制に該当するものは、有害でない新たな素材に置き換えなくてはならないため、新素材に対する信頼性試験が必要となります。

当社は環境試験のプロフェッショナルとして、こうした新しい規制に対しても、自らが研究を行うとともに、学会やさまざまな企業との交流を深めることで、知識

やノウハウを積み重ねています。そして、これらの知識・ノウハウをお客さまに提供することで、「良きパートナー」として信頼関係を築いています。

お客さまの「最高のモノづくり・ 品質づくり」を支えると言う、 強い自覚と使命感をもって臨みます。

当社の環境試験器は自動車だけでなく、エレクトロニクスをはじめとする幅広い分野で使われています。どんな分野でも、当社製品の品質が、そのままお客さまの製品の「品質」「信頼性」に直結するという重責を担っていることに変わりはありません。

エスベックでは、こうしたお客さまの「最高のモノづくり、品質づくり」を支え、ひいてはその製品を使う人たちに安全や安心をお届けしているということ、社員全員が自覚し、使命感を持って事業活動を推進しています。

今後も、当社製品のより一層の品質向上はもちろんのこと、高性能化や高機能化、さらには大幅な省エネを実現したグリーン製品の開発を推進し、お客さまにさすがと云っていただける製品・サービスの提供に取り組んでいきます。



エスベックテストセンター（株）豊田試験所

社員メッセージ



エスベックテストセンター（株）
豊田試験所 所長 浜野 寿之

エスベックテストセンター 豊田試験所の開設

エスベックテストセンターでは、1987年よりお客さまの試験を代行する受託試験事業を行っています。現在、宇都宮、神戸、横浜、刈谷、豊田の5つの試験所を有し、各地域のお客さまに密着したきめ細やかなサービスをご提供しています。2006年9月に新たに開設した豊田試験所は、国内最大級の延床面積（1,150坪）と充実した試験設備を有しており、グローバル化やカーエレクトロニクス化を背景に急拡大している自動車業界からの受託試験のご要望にスムーズにお応えしています。

当試験所は、接合・絶縁試験を中心にお客さまの試験量・種類の変化に対応するためのアウトソーシング機能、また、新たな試験ニーズである耐薬品性など安全試験の実施や基準策定をサポートするコンサルティング機能としての役割を果たしています。

2007年度からは新たに分析事業をスタートしており、今後は、環境試験のみならず耐候性・腐食など信頼性試験全般に関わる試験の実施や、試験後の測定・分析面の強化により、ワンストップソリューションを提供できる総合試験所を目指してまいります。

「社員満足こそが企業発展の原動力」という信念 高度な知識と技術を持つ「プロフェッショナル人



総務部 人材開発センター

センター長 西野 哲次

エスベックにおいて、人材開発は経営の柱です。それは社長の「社員満足があって初めて、顧客満足も、株主満足も生まれる」という信念に根ざしています。

2002年に野路井社長が社長に就任した時、新たな成長を目指して、さまざまな改革・開発がスタートしました。社長が新たに始めた取り組みは、主に5つあります。

①社長から社員へ毎週、社内ホームページにメッセージを掲載する社長通信「すすめーる」、②現場に社長が直接出向いて社員の意見を聞く「社長懇談会」、③高い目標に取組み、成果を出した社員を表彰する「チャレンジャー表彰制度」、④未来の経営幹部を養成する選抜教育「インスティテュート」と「未来塾」、そして⑤中長期の視点で経営を進める「経営革新計画」の策定の5つですが、そのうち4つが「人」に関わること。経営革新計画「エスベックGカンパニープラン」でも「人材開発」が重点戦略の一つに位置づけられています。

スペシャリストとマネジメント…

それぞれの領域で、本物の「プロフェッショナル人材」を育てたい。

当社の人材開発の基本方針は、仕事を通して自己実現を支援すること。そして、本物の「プロフェッショナル人材」を育てること。入社後年功序列式に昇進し、やがて管理職にと

いう画一的なものではなく、それぞれの資質・個性に合わせて、さまざまな形でプロフェッショナルとして自己実現し、会社と社会に貢献できる複線型の人材開発を行っています。

目指す人材像は、大きく、①新たなビジネスを創造し、部門間の垣根を越えて事業をプロデュースできる「マネジメント人材」と、②技術やサービス、営業、生産など、高度な専門性を持ち、業績向上に貢献する「スペシャリスト人材」の二つに分かれますが、大切なのは従業員が自らのキャリアプランに基づいて、個性と能力を最大限に伸ばしていくことです。

従業員一人ひとりの

キャリアプランづくりを支援。

とはいえ、従業員にとって、仕事に打ち込む中で自分のキャリアを改めて見つめ直し、考える機会などはなかなかないのが現実です。人によっては、会社からの教育を、押しつけや過重な負担と感じる可能性があります。

そこで、エスベックでは、一人ひとりが自らの自己実現を考えるという視点から、キャリアプランづくりの啓発・支援プログラムの準備を進めています。自分のキャリアを客観的に見つめ直し、目指すべき方向性を考える方法の啓発・支援を行いたいと考えています。そして、併せてその実現に向けた教育プログラムを提供し、自分の個性や能力、職種などにあったスキルアップの実現を目指しています。今年4月からスタートしている教育プログラムの策定にあたっては、各分野の代表者による「人材開発委員会」を組織。それぞれの分野が求めるスキルを、現場の目で考え、定義し、教育プログラムを開発することで、より実践的な教育を行うことができるようにしています。

エスベックの未来を担う

人材を育成する

未来塾とインスティテュート。

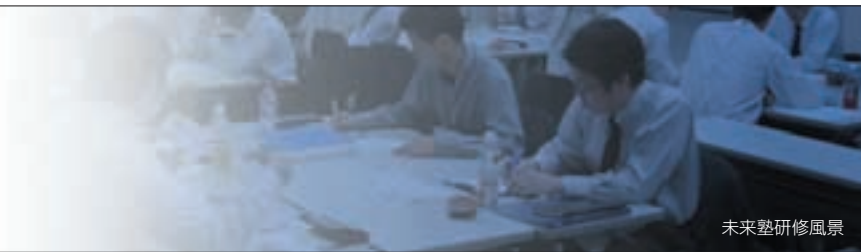
語学教育にも注力しています。

教育プログラムと並んで、当社の人材開発の大きな特長となっているのが、選抜した社



福知山研修センター

のもと、 材」を育成しています。



未来塾研修風景

🔗 関連ページ P22

員を対象とする「未来塾」と「インスティテュート」という二つの制度です。

今年度、新たに開講した「未来塾」は、その名の通り、会社の未来を担う若手を育てる「塾」。20代後半から30代前半の社員を対象に、ロジカルシンキング（論理的思考法）やアカウントティング（会計）、マーケティング、事業戦略策定手法などを学んでもらうもの。約1年にわたり、大学のゼミのような形で、講義と個人・グループ両方の研究課題をこなしてもらいます。

「インスティテュート」は、30代後半から40代前半の社員を対象に次代の経営層候補の養成を目的とするもの。経営全般の知識やマネジメントの考え方などを1年半かけて学んでもらいます。

こうした「教育」とは別に当社が力を注いでいるのが、トップコミュニケーションです。今まで発行された社長通信「すすめーる」は250号、開催された「社長懇談会」は110回、参加者は延べ750人を超え、ビジョンの共有、社内の意識改革の大きな力となっています。

また、語学教育にも力を注いでいることも、エスペックの特長の一つです。英語・中国語・韓国語の習得を経済面でも積極的に支援し、グローバルに活躍できる人材の育成に努めています。

新たに「福知山研修センター」も完成。 「学ぶ組織」「成長する組織」 を育てていきます。

今エスペックが目指しているのは「学ぶ組織」「成長する組織」になること。「すすめーる」や「推薦図書制度」で会社が推薦図書を紹介すると強制でもないので従業員から次々と読書感想文が寄せられ、一年で届いた感想文は1,000通を越えました。このような能力向上を目指す一人ひとりのやる気に会社が応え、育てることで従業員と会社が共に喜び、満足する。そうした取組を通じてエスペックの企業価値を高め、ステークホルダーのみなさまにご満足を提供していきたいと考えています。

2007年の5月には、教育の場の充実を

図るために、工場敷地内に「福知山研修センター」が完成しました。この研修センターは最大160名が収容可能で、同時通訳の設備も整えています。さまざまな社内研修を開催する場としてはもちろん、国内外のお客さまや販売代理店さまを対象とした当社製品勉強会やセミナーでの活用も予定しています。

従来はこうした機能は本社が担っていましたが、工場に隣接して設置することにより、モノづくりの現場を知ることにより、より深く技術・ノウハウを身につけてもらうことができました。

今後もエスペックは、さまざまな人材開発の取組みにより、「プロフェッショナル人材」を育成し、ステークホルダーのみなさまに心からご満足いただける新たな価値を創造し続けていきたいと考えています。



社長通信「すすめーる」

毎週発行される社長からの「すすめーる」。就任から5年間、欠かさず発行されている「すすめーる」は、400字詰め原稿用紙4～5枚分にも。野路井社長が大きな力を注いでいる仕事の一つである。



社長と現場の社員が直接対話する「社長懇談会」は、すでに110回を超え、参加した社員数も延べ750人を超えています。

社員メッセージ



エスペック エンジニアリング(株)
名古屋プランチ 田村 知憲

「エスペック未来塾」を受講して

名古屋地区において、製品の設置やメンテナンスなど、アフターサービス業務全般を行っています。未来塾の選考方法としては、役員推薦と社内公募がありますが、私は、社内公募で選ばれており、全社員に公平に参加のチャンスが与えられています。

未来塾の座学では、財務やマーケティングなどの知識はもちろん、ロジカルな考え方、さまざまな分析方法を学びました。また、与えられた課題研究では、「問題の本質」に迫り「解決策を提言」することを体験しながら学びました。今後の日常業務においても、未来塾で学んだことを常に意識しながら、課題解決の実践に努めていきたいと思っています。

「いかに環境に役立つか」——「THE ESPEC 全地球的な視点から、「エスペック2010グリーン



上席執行役員（環境管理担当役員）

技術開発本部長 **福本 博道**

CO₂10%削減目標を達成し、「さすが」と言われる環境先進企業になりたい。

環境創造をコア事業としている私たちにとって、環境との共生は企業アイデンティティに直結するもの。2010年度までの経営革新計画「エスペックGカンパニープラン」でも、目指す企業像として「環境先進企業」が謳われていますが、その実現に向けて現在、第3次環境中期計画「エスペック2010グリーンプラン」に取り組んでいます。

「エスペック2010グリーンプラン」における目標は右上に記載の通りです。

この中でもっともハードルが高い目標は、CO₂を1990年度比10%削減することです。これは、京都議定書での日本の目標（6%）の

1. 地球温暖化の防止	CO ₂ 10%削減(1990年度比)
2. 資源循環	ゼロエミッション 製品回収率50%
3. 有害物質削減	RoHS指令準拠
4. 社会貢献	独自指標で200%(2005年度比)

2倍近くになります。今後ますます事業を拡大していくなか、2005年比ではなんと33%ものCO₂削減を図るといふ、きわめて高い目標ですが、あらゆる方策を尽くして、目標達成に挑戦しています。そして、これを達成することが、「さすが」と国内外から認められる「環境先進企業」の条件と考えています。

いかに環境に役立つかという、全地球的な視点から4つの取組みを行っています。

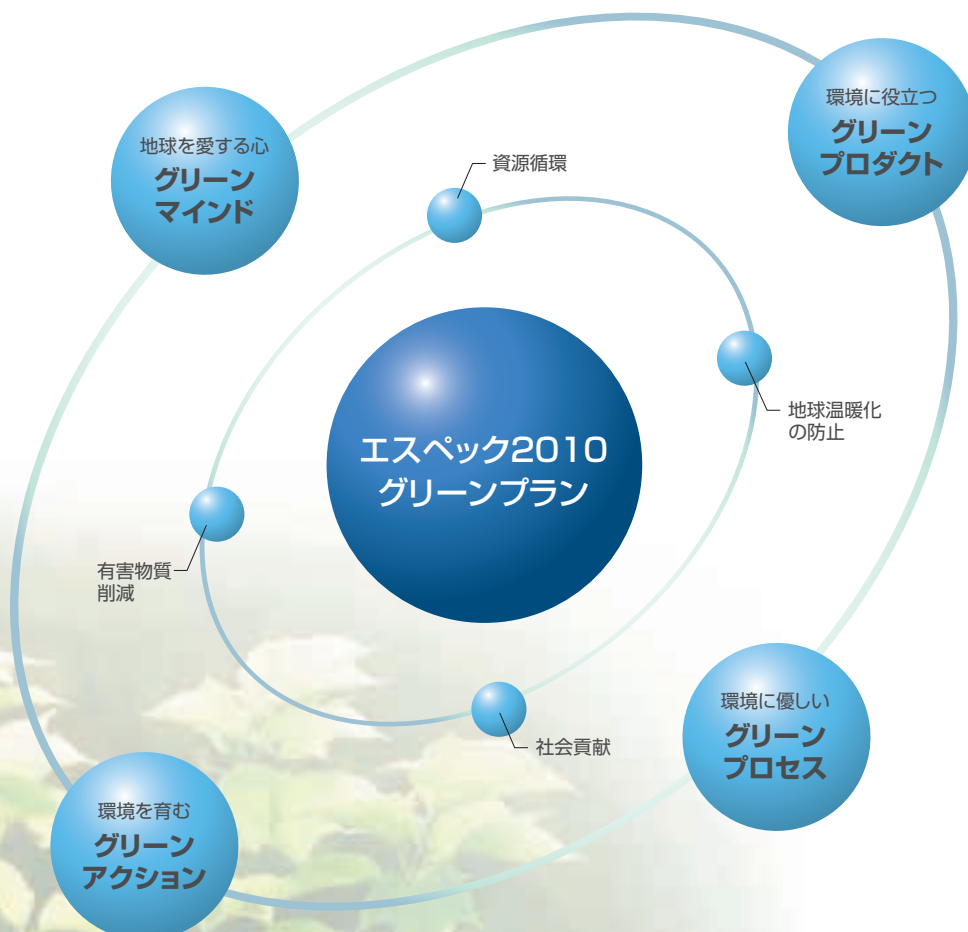
地球環境についての当社の基本姿勢は、「THE ESPEC MIND」の宣言（P8参照）に謳われているように、単に地球に負荷をかけないというレベルを超えて、「いかに地球に役立つか」という視点から考えること。地球温暖化防止、資源循環、有害物質削減、社会貢献という4つにフォーカスしながら、①グリーンプロダクト、②グリーンプロセス、③グリーンマインド、④グリーンアクションの4つの取組みを進めています。

1 グリーンプロダクト

生産から回収再利用までの製品ライフサイクル全体での環境への影響を評価するLCA (Life Cycle Assessment) の視点を取り入れて、次世代の環境配慮型製品の開発を目指しています。従来より30%以上も省エネとなる製品の開発や、



土地本来の植生にあった木が植えられた「エスペックの森」



MIND」の宣言に基づき、 ンプラン」に取り組んでいます。

太陽光発電施設を実証実験もかねて、
宇都宮テクノコンプレックス・神戸R&Dセンター・福知山研修センター（写真）に設置

☞ 関連ページ P32・37・38

リデュース・リユース・リサイクルの3Rを前提にした設計などにチャレンジ。世界を圧倒する環境性能で、お客さまのCO₂削減にも貢献していきたいと考えています。

2 グリーンプロセス

製造プロセスにおいては徹底した省エネ対策/CO₂削減、ゼロエミッション、有害物質代替化をはかるとともに、リサイクルシステムを確立し、トータルでの環境配慮型製造プロセスの実現を目指します。

3 グリーンマインド

社内の環境意識を高める取組みが、グリーンマインド。「もったいない精神」を核に、環境を大切にす人材の育成、オフィスの省エネやゼロエミッションなどの環境にできることを考え、実行する企業風土づくりを進めています。

4 グリーンアクション

社会貢献を図るために、従業員の家族、取引先、地域社会を対象にした取組みを推進。ビオトープ（生物生息空間）づくりやソーラーカーラリーへの参加などに加え、中国での植樹活動、地球環境保全に関する研究・開発などへの資金支援のための公益信託の拡充、家庭や代理店・取引先へのグリーン支援なども行っています。

**神戸R&Dセンターをモデルに、
森づくりや太陽光発電など、
新たな試みを推進しています。**

こうした取組みの中核を担うのが、当社の先端の研究開発拠点「神戸R&Dセンター」

です。神戸R&Dセンターでは「環境先進企業 エスペック」の「モデル事業所」として、数々の新しい取組みを展開しています。

「エスペックの森」— 植樹活動

R&Dセンターの敷地法面に合計約3万本を植樹。その土地本来の植生にあった多様な樹種を植えることにより、本物の「郷土（ふるさと）の森」として守り育てています。

エスペックではこのほかに関係会社のエスペックミックが植樹事業で累計160万本もの植樹の実績を持ち、そのCO₂吸収量は年間1,600tに及びます。

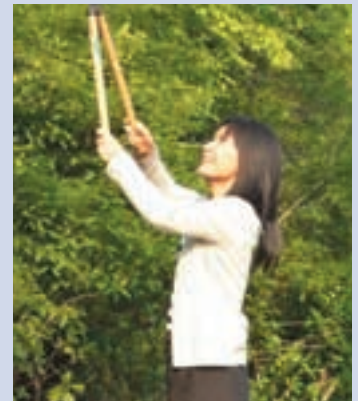
ビオトープ

さまざまな生物群の棲息場所となる水辺環境をR&Dセンターの中に整備。従業員とその家族の教育施設として活用しています。

太陽光発電施設の設置

2006年12月、R&Dセンターの屋上に、定格50KWの太陽光発電施設を新たに設置しました。これは生産拠点である宇都宮テクノコンプレックスに、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）との共同研究を行うために設置した太陽光発電施設に続く2基目。さらに、2007年3月には、福知山研修センターにも同様に設置しました。今後も風力発電施設をはじめとする自然エネルギーの活用など、CO₂のさらなる削減に積極的に取り組んでまいります。

社員メッセージ



神戸R&Dセンター
管理グループ 福田 久美

神戸R&Dセンター「エスペックの森」、ビオトープについて

神戸R&Dセンターで、総務や経理、環境管理などの管理全般を担当しています。当センターは、従業員が植え、育てた「エスペックの森」に囲まれています。植樹時は小さかった苗木が見上げるまでに大きく育ち、大変だった下草刈りも今は懐かしく、親心にも似た気持ちを抱いています。同じ敷地内にあるビオトープでは、池を覗けばメダカやドジョウ、その上をたくさんのトンボが飛びかいます。また、サギ、キジ、鴨、ウグイス、セキレイなど、訪れるさまざまな鳥を見ていると心が癒され、良いリフレッシュの場となっています。今後は従業員だけでなく、近隣の子供などより多くの人々にもここで自然に触れ、環境について学んでいただけるよう、引き続き事業所社員みんなで生物が棲み良い環境の維持・管理に努めていきます。環境モデル事業所である神戸R&Dセンターの今後の進化に期待を寄せるとともに、エスペックの環境に対する積極的な姿勢を誇りに思います。



多様な生物群が自然に集まるように整備されたビオトープ。従業員・家族への教育用にも使われている。写真の鳥は、ビオトープを訪れたアオサギ。

経営・マネジメント

社会に価値を提供し続ける
企業であるために。

エスペックは、良き社員の一員として、社会に価値を提供し続ける企業であるために、エスペックの誓いであり、価値観である「THE ESPEC MIND」に基づきながら、CSR先進企業としての取組みを進めていきます。

THE ESPEC MIND

良き社会の一員として、エスベックが誓うこと。



「THE ESPEC MIND」

1999年12月、エスベックは、創業当時から脈々と伝わるエスベックの価値観を体系的にまとめ、あらゆる意思決定や活動のよりどころとなる「THE ESPEC MIND」を制定しました。この「THE ESPEC MIND」の思想の中心は、エスベックが「社会に価値を提供し続ける存在」でなければならないというものであり、その中の「宣言」では、経営において私たち全員が尊重すべき事柄として、「遵法」、「文化」、「人権」、「環境」、「啓発」の5つを挙げ、その実践を誓うとともに、エスベックが「良き社会の一員」として存在することを宣言しています。

そして、2006年5月、この「THE ESPEC MIND」の思想をベースに、エスベックに所属するすべての役員・従業員に適用する企業行動原則と行動基準を具体的に明記した「エスベック行動憲章・行動規範」を新たに制定しました。本行動憲章・行動規範をエスベックに所属する一人ひとりが遵守し、積極的に実践することで、CSRのさらなる向上を図っていきたいと考えています。



「エスベック行動憲章・行動規範」
小冊子

エスベック行動憲章

社会貢献活動の実践

良き社会の一員として、より健全で豊かな社会の実現に向け、積極的に社会貢献活動を行います。

法令・企業倫理の遵守

一人ひとりが、事業を展開する国や地域の法令、社会規範、企業倫理を遵守し、誠実に業務を行うよう努めます。

文化の尊重

事業を展開する国や地域の文化、社会規範を尊重するとともに、企業文化の良質化に継続的に取り組めます。

人権の尊重

基本的人権を尊重し、社内外において、性別・年齢・国籍・人種・民族・宗教・信条・社会的身分・障がい等による差別的取扱、言動は一切行いません。

地球環境保護・保全への貢献

環境保護・保全・改善は企業経営の最重要課題のひとつであると認識し、あらゆる国や地域において、自主的かつ積極的に環境保全活動に取り組めます。

お客様の信頼と満足の追求

すべての企業活動において、お客様の視点に立った活動を行い、お客様の信頼と満足を追求します。

職場環境の維持・向上

労働安全衛生に関する法令や社内規定等を遵守し、従業員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に努めます。

適切な情報の開示

あらゆるステークホルダーのみなさまに対して、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーに提供し、実直なアカウンタビリティを実践します。

エスベック行動憲章・行動規範の啓発・教育

あらゆる機会を創出して、エスベック行動憲章・行動規範の啓発と教育を行い、社内への周知徹底を図ります。

CSR経営

ステークホルダーのみなさまとの価値交換性の向上を目指し、CSRを経営の根幹に据え、多面的な取組みを進めています。

ESPECのCSR

項目	目的	2006年度の主な取組み	掲載・関連ページ
経営・マネジメント	CSR経営 ・社会性・透明性・効率性の高い経営体制の構築	■ エスベック行動憲章・行動規範の制定	16
		■ CSRサイトの開設 ■ コンプライアンス通報規定の制定 ■ 社内外の方からの通報をお受けするコンプライアンス通報窓口の設置	18
社会性パフォーマンス	従業員とのかかわり ・活躍できる場の提供 ・快適な職場環境の提供	■ 人材開発センター、人材開発委員会の設置 ■ 新教育プログラムの策定 ■ 選抜教育「エスベック未来塾」の開講 ■ 一斉退社日の設定 ■ 有給休暇計画取得制度の導入 ■ 従業員満足度調査の実施	11・12・22 21
		お客さまとのかかわり ・安全・安心してお使いいただける質の高い製品・サービスの提供	■ 小集団業務改善活動「QMC (Quality Management Circle) 活動」の開始 ■ センターセールスの開始 ■ 顧客満足度調査の実施 ■ お客さまの意見・要望を社内にフィードバックする「お客さまの声シート」活動の開始
	株主・投資家さまとのかかわり ・迅速かつ適切な企業情報の開示		■ 開かれた株主総会・株主懇談会の開催 ■ 機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会の開催 ■ 個人投資家向け会社説明会の開催 ■ IRサイトの充実 ■ 株主アンケートの実施
		取引先さまとのかかわり ・公平な取引関係による適正な調達	■ 下請代金法チェックリストの改定、内部監査の実施 ■ 下請代金法講習会の開催 ■ エスベック優良取引先表彰の実施
	地域社会とのかかわり ・社会貢献活動の実践	■ ジャワ島中部地震被害に対する支援の実施 ■ 公益信託「エスベック環境研究・技術基金」による資金援助の実施 ■ 天満天神繁昌亭設立に対する支援の実施	28
	環境パフォーマンス	環境への取組み ・地球温暖化の防止、資源循環の促進、環境の汚染防止 ・環境マネジメント活動、製品・サービスの改善	■ 環境配慮型製品の開発のためのLCAソフトの導入
■ 環境配慮型製品の拡販			35
■ グリーン購入の促進			36
■ 資源循環に向けた広域認定制度への申請			—
■ 豊田試験所において植樹を実施			37
■ 神戸R&Dセンターおよび福知山研修センターにソーラーパネルを設置 ■ 環境フェスティバルの開催・出展 ■ ソーラーカーラリーへの参戦(クラス優勝)			14・38 38

コーポレートガバナンス

❖ 基本的な考え方

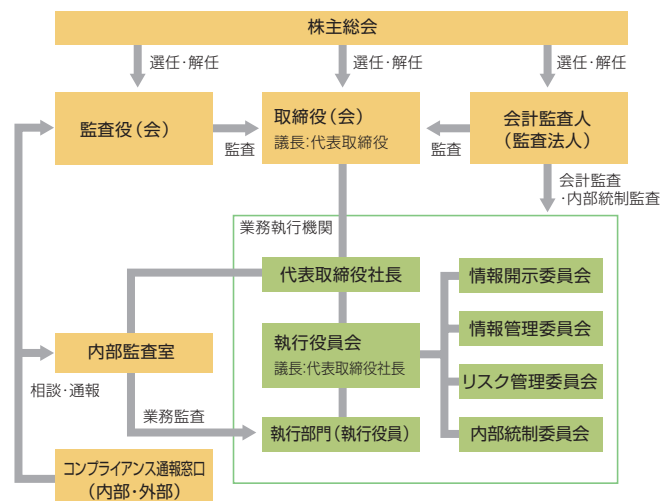
エスベックは、企業は人々のさまざまな願いや社会の期待に応えるための役割や機能を果たす社会的な装置であるという「企業は公器」との考えのもと、ステークホルダーのみならずとより良い関係を築き、それぞれに対する価値交換性を高め、責任を果たしていくことが社会的使命であると考えています。この基本的考えを踏まえて事業活動を行うにあたり、コーポレートガバナンス（企業統治）の確立は不可欠であり、コンプライアンス（法令遵守）の確保と、より社会性・透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指しています。

❖ コーポレートガバナンス体制

2002年4月より、業務執行機能と経営監視機能の明確な分離を図り、権限と責任の明確化と、意思決定と実践の迅速性を高めるため、執行役員制度を導入しています。取締役の任期については2年から1年に短縮するなど、経営責任についての明確化も図っています。また、エスベックは監査役設置会社であり、監査役は毎月開催される取締役会に原則として必ず出席し、取締役会や執行役員会で協議・決定された業務執行に対して適正な監査を行っています。

2007年3月末現在、取締役は社外取締役2名を含む5名、監査役は社外2名を含む4名、執行役員は社長を含め13名で構成しています。

■ コーポレートガバナンス体制



コンプライアンス

❖ 「エスベック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

エスベックでは、「エスベック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、2006年12月に新たに開設したCSRサイトに掲載し、社内外に公表するとともに、研修の実施や常時携帯するための小冊子の作成・配布を行いました。

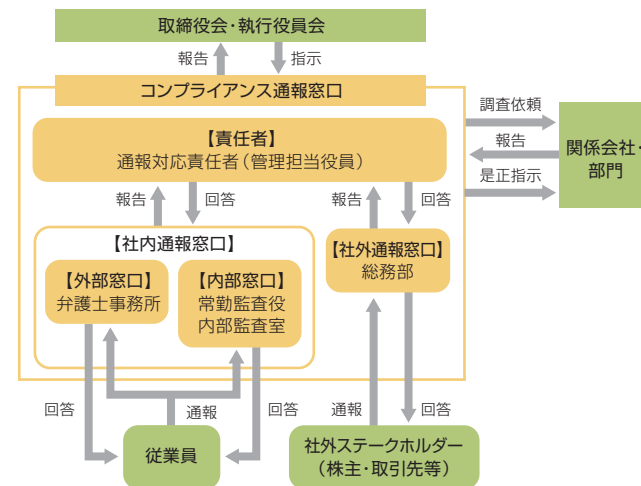


CSRサイトトップ画面

❖ コンプライアンス通報窓口の設置

2006年4月、コンプライアンス通報規定を制定し、当社従業員を対象としたコンプライアンス通報窓口を社内外に設置しました。さらに、同年12月には、お客さまやお取引先さまなど社外の方からも広く通報をお受けする窓口を新たに設置しました。これにより不正行為等の早期発見・是正を行い、コンプライアンス体制のさらなる強化を図っています。

■ コンプライアンス通報制度体制



リスクマネジメント

2004年9月、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的として情報管理委員会を発足。2005年3月には、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」の制定、情報セキュリティ委員会の設置など管理体制を組織化しました。

また、2006年度には、リスク管理委員会も設置し、リスクマネジメントの強化を図っています。

社会性パフォーマンス



すべてのステークホルダーに満足を提供したい。



エスペックは、遵法・文化・人権・環境・啓発の5つを尊重しながら、従業員満足を起点に価値交換性が高く、すべてのステークホルダーにご満足いただける世界優良企業を目指した取組みを進めています。

従業員とのかかわり

社員の創造性・多様性・能力を生かし、共に成長していく…
「社員が主役」の会社でありたいと考えています。

基本的人権の尊重

エスペックは、「エスペック行動憲章」において、基本的人権を尊重し、性別・年齢・国籍・人種・宗教・社会的身分・障がい等による差別的取扱、言動を一切行わない旨を定めるとともに、「エスペック行動規範」においても、プライバシーの保護や雇用における機会均等、児童労働・強制労働の禁止、人権侵害行為への対処などを明記し、社内研修を行うことで、役員・従業員の行動原則・行動基準として、周知徹底を図っています。

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。社員が働いて、楽しいエキサイティングな会社でありたい。社員が主役の会社でありたい。というのが基本的な考え方です。

また、経営革新計画「エスペックGカンパニープラン」において「人材開発」を重点戦略のひとつとして位置づけており、経営の視点で事業をプロデュースできる「マネジメント人材」と高度な専門能力を持ち業績向上に貢献する「スペシャリスト人材」の開発・育成に取り組んでいます。

人事制度

若さと活力を生み出す人事制度

エスペックは、「役割・成果主義を基軸とした人事制度」および「選択と自己責任を基軸とした人事制度」を2本柱として、役割と成果に応じたメリハリのある、かつ透明性のある処遇システムの採用により「若さ」と「活力」を創出する人事制度の構築に努めています。

社内公募制度

新規事業や戦略プロジェクト要員を社内で公募する制度で、ミッションと求める人材像、応募資格を社内ホームページに公示し、参画を希望する社員を広く募集しています。

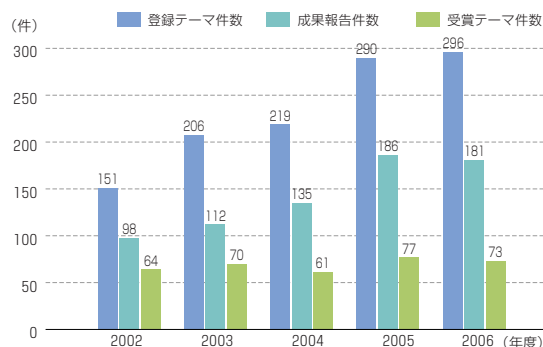
■社内公募制度 過去の実績

	募集人数	応募人数	登用人数
利用者数(制度実施 計8回)	47人	63人	28人

チャレンジャー表彰制度

チャレンジ性の高いテーマにチームで取り組み、より大きな成果を達成したチームを表彰する制度です。

■チャレンジャー表彰制度 過去の実績



コース選択制度(勤務地限定選択制度)

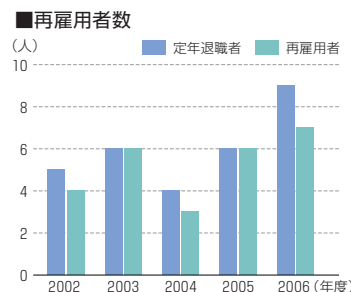
家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2007年3月末におけるコース選択状況は、「転勤あり(海外を含む)」が72%、「勤務地限定」が28%となりました。

今後も社員一人ひとりがより働きがいを感じることができる人事制度を目指し、さらなる改革・改善に取り組んでいきます。

多様性の尊重

定年退職者の再雇用

エスペックでは、全社員を対象とした定年退職者の再雇用制度を導入し、公的年金の支給開始年齢の引き上げに合わせ、段階的に65歳までの雇用を確保するようにしています。現在まで希望者については、ほぼ全員を再雇用しています。



障がい者の雇用

現在、障がいのある方を6名雇用しています。障がいのある方を、その能力や適正に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組めます。

女性の管理職登用

現在の管理職は男性が136名、女性が3名です。女性管理職比率は約2%ではありますが、管理職に登用する条件については、男女雇用機会均等法を遵守し、性別による格差は一切設けていません。

女性管理職の増加が女性社員の士気向上とともに組織の活性化につながるよう、計画的な育成と登用により同比率の引き上げを図っていきます。

労使関係

エスペックとエスペック労働組合は労働協約と相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、労使対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでいます。その一環として、労使専門委員会を設置し、人事諸施策の内容と効果の検証、およびその深耕と水平展開を行っています。また、労使が対等な立場で情報・意見交換を行う場として、毎月「労使協議会」を開催しています。

現在の組合員は671名、組合員比率は79.2%となっています。

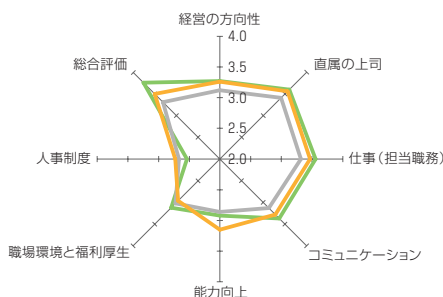
従業員満足度調査の実施

エスペックは、従業員満足度と経営品質の向上を目的として、2004年度より第三者機関による従業員満足度調査を実施しています。

2007年度は前年度と同様、業界平均を上回る満足度を示しましたが、さらなる納得性と満足度の向上を目指し、各職場でのコミュニケーションの促進、総労働時間の削減、教育機会の拡大などに取り組みました。今後も引き続き社員の意見を経営活動に取り入れ、経営層と社員間での高い信頼関係と風通しの良い社内風土の醸成に努めていきます。

従業員満足度

— 製造業平均
— ベスト企業
— エスペック2007



快適な職場環境づくり

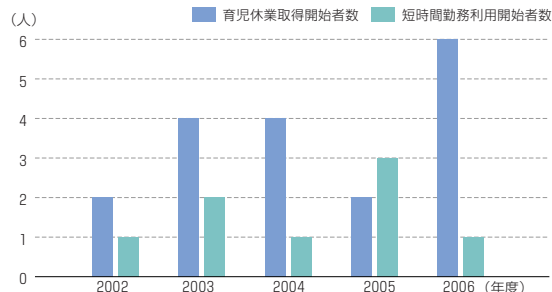
ワーク・ライフ・バランスマネジメント

エスペックでは、2006年4月より改正労働安全衛生法を拡大適用し、単月の時間外労働時間が80時間を超える従業員に

対しては、医師による面接指導を義務付けています。

家庭と会社のバランスを考慮し、2006年度は、週に1回の一斉退社日の設定や、有給休暇計画取得制度の導入を行いました。また、次世代育成支援策の一環として、子供を養育する社員が家庭と会社を両立できるように、育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しています。現在までに延べ45名の女性社員が育児休業を取得し、延べ16名が育児短時間勤務を選択しています。

育児休業・短時間勤務制度利用者数



安全衛生活動

エスペックは安全衛生活動を遂行する上で関連するあらゆる法令を遵守することはもとより、安全衛生管理規定の制定や倫理的な見地を重視した自主的取り組みを推進しています。主要事業所毎に安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。

また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動により交通事故の撲滅に取り組んでいます。

2006年度のエスペックにおける労働災害(不休災害を除く)の発生件数は、0件/百万時間と全産業平均1.9件、製造業平均1.0件を下回る結果となりました。

社会問題となりましたアスベストへの対応につきましては、全事業所のアスベスト使用状況と飛散性アスベスト使用箇所の飛散対策実施の調査・確認を行うとともに、以前製品に使用していたアスベスト含有断熱材の加工作業者を対象に特殊健康診断を実施[※]しました。

※ 診断結果にアスベストに起因する所見はありませんでした。

安全衛生活動の目標と過去3年間の実績

目標項目	目標	2004年度	2005年度	2006年度
労働災害(不休災害を除く)	0件	1件	1件	0件
健康診断受診率	100%	98%	99%	98%
車、バイク、自転車による人身事故	0件	4件	6件	8件
車およびバイクによる自責事故	0件	18件	21件	35件

❖メンタルヘルスケア

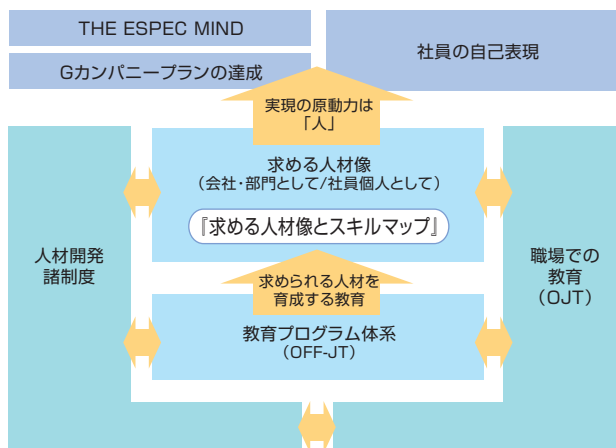
近年増加するうつ病や精神障がいへの対策として、2005年度よりメンタルヘルスケア制度を導入しています。Web上のストレス診断で、毎月自己の状況を確認するほか、eラーニングによる知識習得、相談窓口設置による問題の早期発見・早期改善の支援を行っています。

また、ストレス診断の実施結果を分析・把握した上で、管理職向けの研修を開催し、快適な職場づくりに取り組んでいます。休職後の復職時についても専門家のアドバイスを交えた支援を行うなど、心の病の予防・早期発見に努めるとともに発症時の専門的ケアを行っています。

人材開発（教育プログラム）

エスペックの人材開発の基本は、社員の自ら学ぶ意志にもとづく能力開発にあります。社員の学ぶ意志を尊重し、その実現のために、会社として教育機会の提供や制度整備などの支援を積極的に行います。そして社員の自己実現のニーズと会社として求める人材像の両方を満足するWIN-WINの関係に基づく人材開発を目指しています。

能力開発の指針として、職位や職能において必要とする能力を「求める人材像とスキルマップ」として明確に定義し、その習得と向上を図る教育プログラムを運用しています。これら教育プログラムは人材開発委員会において、継続的に見直しを行い内容の改善を図っています。また、職種による教育機会の偏りをなくすために教育受講時間目標を設定し、会社として教育機会の確保と受講の促進を行っています。あわせて語学能力向上を目的とする支援制度の導入など、教育機会の提供だけでなく経済面での支援の充実にも努めています。



トップコミュニケーション

ビジョンや情報の共有化、社員の意識改革を目的に、毎週社内ホームページ上に、社長通信「すすめーる」を掲載し、経営トップ自らが経営方針や課題、取り組みの進捗状況などを社員に伝えています。この取り組みは、2002年度から開始しており、2007年3月末には発行回数250回を突破しました。

また、トップからの一方的な発信だけでなく、社長と一般社員が直接向かい合い、現場の問題などについて話し合う「社長懇談会」も随時開催しており、これまでの開催回数は110回を超え、参加した従業員も延べ750名を超えています。社長懇談会で提案された必要な事柄については、「すすめーる」で紹介するとともに、すぐに経営活動に取り入れています。

エスペックは、ビジョンを社員に浸透させるとともに、社員の意見を経営にフィードバックし、経営に活かすことで、高い信頼関係と風通しの良い社内風土の醸成に努めています。

従業員を支える家族に日ごろの感謝を込めて

当社では、日ごろ従業員を支えてくれている家族の誕生日に、感謝の意味を込めて社長からお花が贈られてきます。妻の誕生日が祝日ということもあり、休日の朝に鉢植えの花を受け取ったことを今でもはっきり覚えています。私自身、届くことをすっかり忘れており、妻にも全く話をしていなかったのが本当に驚きました。これまで、家に花がある生活をしていなかったのが「こういうのも新鮮でいいね」と夫婦で喜びました。普段と違った時間を過ごすことができたことを感謝しています。



東日本営業部 特販グループ 小川 光

お客さまとのかかわり

「お客さまの品質を支える」という強い自覚に立って、グローバルカスタマーの高い期待と信頼に応えてまいります。

お客さまへの基本方針

エスペックは「エスペック行動憲章」において、お客さまの信頼と満足の追求を掲げ、すべての企業活動をお客さまの視点に立って行っています。「エスペック行動規範」においても、信頼性の高いモノづくりを掲げ、お客さまへの良質な製品・サービスの提供に取り組んでいます。

製品・サービスの品質保証

品質方針

エスペックは、品質保証活動の中核を担う信頼性試験を行う環境試験器を提供しており、エスペック製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、エスペックの存在意義があると考えています。当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命を果たす、より確かな製品とサービスの提供」を品質方針として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向け、日々取り組んでいます。

品質保証体制

エスペックは、企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立しています。また、1993年に国内他社に先駆けて品質国際規格「ISO9001」を取得し、2002年には2000年版に移行するなど、品質保証体制の継続的改善を実施し、エスペック製品のさらなる品質向上に努めています。

2006年度は品質戦略会議を新設し、全社横断的な体制とすることで抜本的な品質改善に取り組ましました。

エスペックは、確かな技術と国際レベルでの品質保証体制で、お客さまの信頼・要望にお応えしています。

QMC活動

エスペックは2006年度より、これまで生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造を目指す「小集団活動」へ転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。これは、営業・スタッフ部門から開発部門にいたるまで、その対象を広げ、「全てはお客さまのために」という視点で、全社を対象とする全員参加型の小集団活動として展開しています。品質改善やコスト削減、業務効率の向上などQCDに関わるさまざまなテーマで改善活動に取り組み、大変高い成果を得ることができました。

クリーンサービス活動

毎年新入社員研修の一環としてお客さまの要望調査および製品の簡易点検・清掃 (クリーンサービス) 活動を実施しており、お客さまから高い評価をいただいています。2006年度は大阪、東京、さいたま、名古屋の4拠点で活動を実施し、この成果は社内発表会を行い各担当部門へフィードバックすることで、お客さまの声を反映させた製品・サービスの提供に努めています。



クリーンサービス発表会

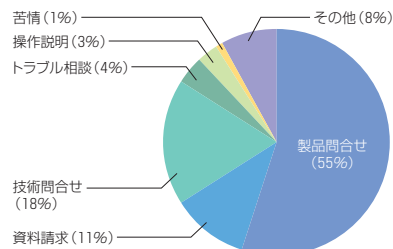
サポート体制

カスタマーセンター

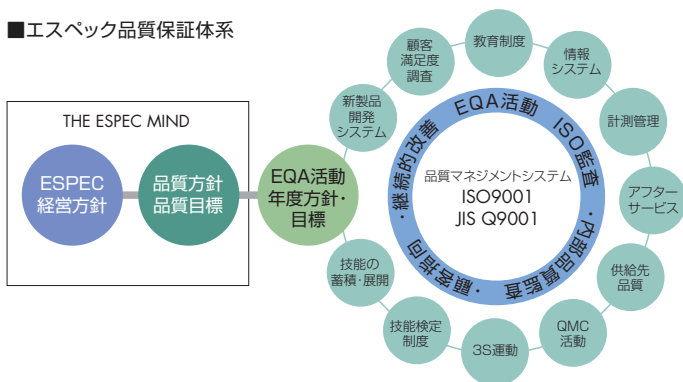
エスペックは、全国のお客さまや代理店さまの問合せにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置しています。2006年度はセンターセールスの本格的稼働により、製品仕様や技術問合せ、資料請求など、昨年度に比べ5,000件多い、年間約14,000件について対応しました。

カスタマーセンターは、お客さまや代理店さまの期待に応える製品・サービスの提供を実現するため、「お客さまの声シート」を活用するなど、設計・開発部門へお客さまの声を最大限に生かすシステムづくりを行い運営しています。

2006年度 お問合せ内容 (総数: 13,877件)



エスペック品質保証体系



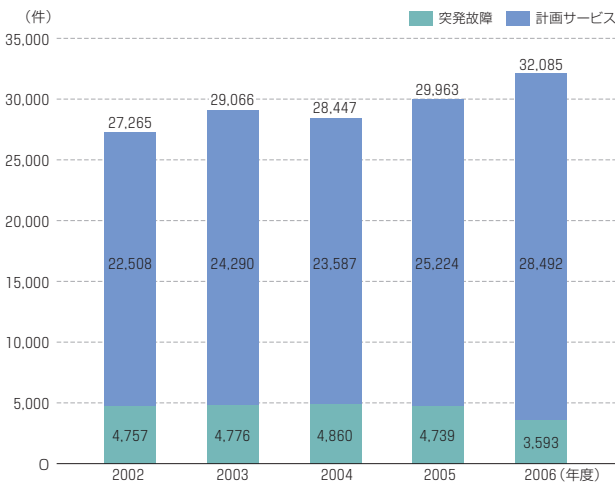
アフターサービス体制

研究開発や生産工程においてご使用いただいているエスペック製品は、どんな些細なトラブルもお客さまの貴重な時間やコストのロスにつながりかねません。そのため、エスペックでは、全国に22拠点ものサービスネットワークを構築。フィールドでのサービスデータに基づいた最適な予防保全活動で故障防止に努めるとともに、24時間フルタイムの技術対応サービスを行うなど、お客さまの故障に対して迅速に対応し、安心・安全をお届けしています。

また、サービスアンケートを実施し、サービスマンに対する満足度の調査・分析を行いました。この結果をもとに、サービスマンの教育や管理者による現場監査を行うなど、アフターサービスの向上に役立てています。

エスペックでは、製品突発故障の約90%（2006年度）を3日以内で修理対応しており、その迅速な対応はお客さまから高い信頼と評価をいただいています。

サービス処理件数



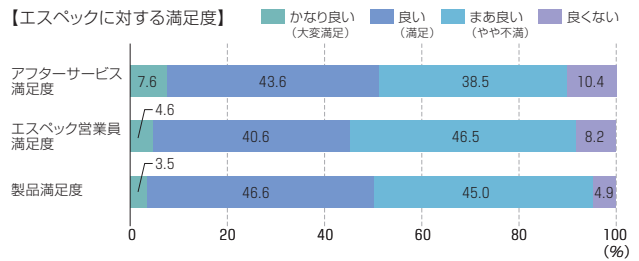
顧客満足度向上に向けて

顧客満足度調査

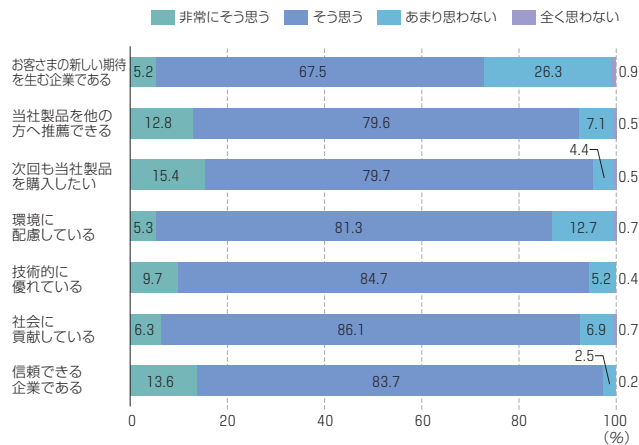
お客さまの当社に対する意識・評価を的確に把握するために、毎年、アンケート形式による顧客満足度調査を実施しています。2006年度は、前年度に当社製品をご購入いただいた1,000名のお客さまを対象に実施し、471名（回答率47.1%）と多くの方々からご回答をいただきました。

アンケートを通じていただいた、お客さま一人ひとりの声や評価に真摯に耳を傾け、みなさまにご満足いただける製品・サービスの提供を目指して、さらなる質の向上・改善に取り組んでいきます。

顧客満足度



【エスペックブランドに対する評価】



「お客さまの声シート」の活動を通して

2006年4月より「お客さまの声シート」という新たな活動を開始しました。この活動では、当社社員がお客さまから聞いた製品に関するアイデアやエスペックに対する意見・要望などを経営企画室で集約し、社内の関係部門にフィードバックすることで、経営の質の向上に取り組んでいます。実際は何気ない些細な情報が多いのが現状ですが、こうしたなかにも製品の操作性や機能などお客さまによりご満足いただくためのさまざまなヒントが隠されており、これらに真摯に対応しましたところ、お客さまから大変喜んでいただきました。今後も、「よりお客さまに近いエスペックであり続けるために小さなことからやり続ける」、そんな活動を積み重ね、エスペック社員全員がお客さまに価値を提供する存在になってまいります。

経営企画室 情報マネジメントグループ マネージャー 瀬川 荘司



株主・投資家さまとのかかわり

IR活動を重要な経営課題と位置づけ、IRポリシーに基づき、公平かつ迅速な情報開示と積極的なコミュニケーションを展開しています。

基本方針「IRポリシー」

エスペックは「良き社会の一員」として、エスペックのあらゆるステークホルダーとのより良い関係の構築(価値交換性の向上)や社会的責任を果たすことを企業理念として掲げています。株主・投資家さまとのコミュニケーションをより良好に行うためのIR活動におきましても、その理念を踏まえ、「IRポリシー」として明文化し、活動の規範として周知徹底を図っています。

株主・投資家さまとのコミュニケーション

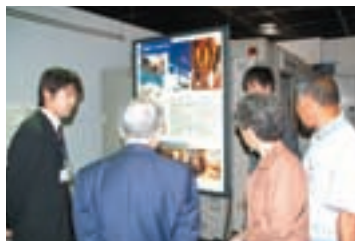
情報開示の方針・体制

エスペックは、会社法・金融商品取引法等の関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従って、情報開示を行っています。同規則に該当しない情報についても、当社を理解していただく上で役立つ情報は、積極的かつ公平に情報を開示していきます。エスペックはそれを遵守するための社内体制として、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含めた開示情報の内容・時期・方法などを審議することで、適時適切な情報開示を実施しています。また2007年4月には、適時開示業務、IR業務および広報業務を迅速かつ適切に行うため、情報開示規定の付随マニュアルとして新たに制定しました。

さらに、ホームページ上に情報をタイムリーに掲載することで、より多くの株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報開示を推進しています。

開かれた株主総会の実現に向けて

エスペックは、株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。2006年度は6月27日に開催し、128名の株主さまにご参加いただきました。総会終了後には、株主懇談会およびショールーム見学会を実施し、当社の事業内容や経営戦略などについてのご理解を深めていただきました。



株主総会後のショールーム見学会

機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と執行役員が出席し、業績や経営革新計画の進捗などについて説明しています。また、個別ミーティングにつきましても東京・大阪を中心に随時行っており、2006年度は約150回実施しました。

個人投資家向け会社説明会

エスペックは、みなさまにとって、より公平で公正な企業でありたいと考えており、個人投資家さまに対しましても、会社説明会を実施しています。2007年3月には、東京において開催し、約200名の個人投資家さまにご参加いただきました。参加者アンケートでは、当社の事業内容や環境経営の取組み、経営者の経営に対する姿勢などについて、大変高い評価をいただきました。



個人投資家向け会社説明会

IR資料の充実

エスペックを理解していただく上で役立つ情報は、積極的に情報開示を行っています。株主通信やファクトブックといったIR資料の定期発行に加え、2007年6月にはCSRレポートのリニューアルを行うなど、より分かりやすい紙面づくりに継続して取り組んでいます。また、海外投資家さまに対しましても、アニュアルレポートの発行や四半期ごとの決算情報をホームページに開示するなど、一層の資料充実に努めています。

IRサイトの充実

エスペックは、IR活動を行っていくうえで、ホームページ上での情報開示の重要性を強く認識しており、その充実に継続的に努めてきました。

その結果、エスペックのIRサイトは、大和インベスター・リレーションズ社が主催する「インターネットIRサイト優秀企業賞」を連続で受賞するとともに、日興アイ・アール社が主催する「全上場企業ホームページ実態調査」において、数ある上場企業の中から優秀サイト（総合ランキング）として選定されるなど、非常に高い評価をいただいています。

また、携帯電話用IRサイトの運用も行っており、投資家さまの利便性の向上を図っています。



WEB <http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>



エスペックIRサイト



QRコード
カメラつき携帯電話のバーコードリーダーで読み取ると、携帯電話用IRサイトにアクセスできます。

携帯電話用IRサイト
<http://m-ir.jp/c/6859>

株主・投資家さまのご意見のフィードバック

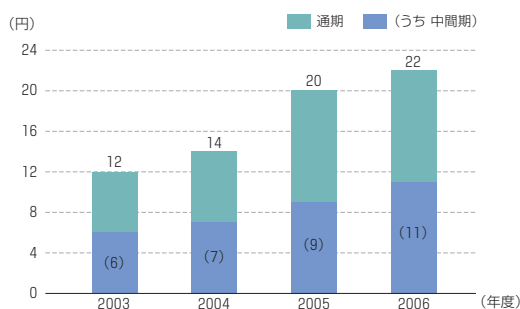
エスペックは、株主通信の送付時に株主さまを対象としたアンケートを実施しており、会社説明会の開催時などでも投資家さまからご意見をいただいています。株主通信のアンケート結果につきましては、中間期の株主通信において報告しています。

さらに2007年5月には、新たに株主になっていただいた方を対象にアンケートを実施しました。今後も、こうしたエスペックに対する株主・投資家さまの評価やご意見を社内にフィードバックすることで、自らの課題を浮き彫りにし、今後のIR活動、経営の質の向上に努めていきます。

株主さまとともに

連結配当性向20%を目安に利益還元

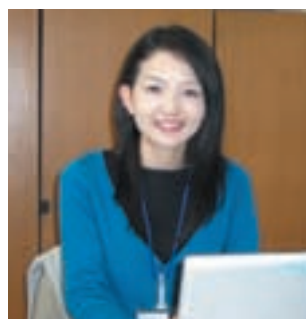
エスペックは、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題と認識すると同時に、持続的な企業価値の向上が株主利益向上の基本であると考えています。配当金につきましては、各年度の連結業績を重視し、連結配当性向20%を目安に配当の決定を行います。2006年度の年間配当金は、前期に比べ2円増配の1株あたり22円で、連結配当性向は20.6%となりました。



※2003年度の配当金12円は、記念配当(株式上場20周年記念)2円を含む

IRサイト優秀賞の受賞

私は、ホームページの管理・運営を担当しています。この度、当社IRサイトが、大和インベスター・リレーションズ社さまと日興アイ・アール社さまから優秀サイトとして選定いただけたことを大変嬉しく思います。多くの投資家さまがインターネットで情報収集をされている昨今、企業ホームページは、投資家さまと当社をつなぐ大変重要なコミュニケーションツールのひとつと認識しています。今後も継続的にホームページの改善に取組み、アクセスしていただいたみなさまにとって、使いやすく、充実したものにしていきたいと思っております。



総務部 IR・広報グループ 板谷 由里子

取引先さまとのかかわり

事業活動の重要なパートナーとして、相互発展できる関係の構築を図っています。

基本方針

エスペックは取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を遵守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスなどを適切な品質・価格・納期・環境への配慮などを総合的に判断し調達していきます。

取引先さまとのよりよい関係を目指して

「下請代金法」への対応

エスペックでは、資材調達において「下請代金遅延等防止法(下請代金法)」の遵守を徹底することを目的としたさまざまな取組みおよび社内教育の徹底を行っています。

2006年度は、社内独自に作成した下請代金法チェックリストの見直しとこれに基づく内部監査を実施し、懸案事項に対し必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動を行ってきました。また、購買担当者だけでなく、取引先さまと関係のある部署・グループ会社の方を対象に下請代金法講習会を3回開催しました。

「エスペック共栄会」の運営

エスペックでは1981年より取引先さまとエスペックとの相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を組織しており、現在は43社の取引先さまに参画いただいています。この「エスペック共栄会」では、経営やコスト戦略について学ぶセミナーや工場見学などを年4回実施しているほかQCサークル活動に関する勉強会を毎月実施するなどさまざまな活動を展開しています。



エスペック共栄会総会

また、年1回開催される総会において、エスペックの経営方針発表を行い、当社の目指す方向性について取引先さまにもご理解いただき、相互発展していくことを目指しています。

「エスペック優良取引先表彰制度」の実施

エスペックでは多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表することを目的に、2003年度より「エスペック優良取引先表彰制度」を導入しています。

2006年度は、社長賞1社・優秀賞3社の取引先さまを表彰させていただきました。



2006年度表彰式

グリーン調達の実施

エスペックは2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定し、「エスペック共栄会」を含む資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは「環境活動評価プログラム(エコ・アクション21)」の認証取得またはこれらの簡易版「エスペック・エコスタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、実現のために講習会・現地指導による活動支援を行っています。

現在仕入高の80%を占める主要仕入先約100社がエスペックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。



グリーン調達取引先認定書

「QD改善ハンドブック」の作成

私は、エスペック製品に必要な部品を供給いただく取引先さまの品質と納期に関する改善のため、取引先さまの会社にお伺いして、一緒に問題解決に取り組んでいます。このような改善活動において、さまざまなエスペック社員が頻繁に取引先さまに訪問するなかで、訪問する社員のスキルなどによって言っていることが異なっている、改善へのステップが違っているなどの問題が生じ、取引先さまがエスペックの対応に不満を抱かれる要因となっていました。そこで、この度、訪問時のマナーや打合せの仕方、不具合の発生から原因追求、対策実施までのプロセスなどを解りやすくまとめた「QD改善ハンドブック」を新たに作成しました。このハンドブックをエスペック社員が訪問時に活用することで、取引先さまとの信頼関係の向上に努めています。

品質保証部 製品保証グループ 川村 隆行



地域社会とのかかわり

地域社会の一員として、また地球市民として、「私たちにできること」を大切にしています。

❖ ジャワ島中部地震被害に対する支援

エスペックは、2006年5月、ジャワ島中部で発生した大地震に対する復興支援として、エスペック役員および従業員、代理店さま、取引先さまより義援金を募り、日本赤十字社を通じて、約270万円の寄付を行いました。



赤十字への寄付風景

❖ エスペック地球環境研究・技術基金

エスペックは創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置しました。

地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対し、資金援助を実施しており、これまでに64団体に対し、総額3,500万円の助成を行いました。



2006年度公益信託授与式

❖ ボランティア活動

エスペックでは毎年、労働組合の上部団体JAMの主催による社会奉仕活動に社員を派遣しています。この活動は、大阪府全域から体の不自由な方々をお招きして、遊園地や水族館、海洋クルーズ等で、安全でかつ楽しい一日を過ごしていただくための手助けを行うもので、1988年以来、毎年約80名の方々を招待しています。ささやかな活動ですが、幅広く市民と協力し合っ、積極的に継続していきたいと考えています。

❖ 地域清掃活動

エスペックは、世界環境デーである6月5日を含む1週間を「エスペック環境強化週間」と定め、事業所周辺の通勤路や近隣公園などで、地域清掃活動を実施しています。

2006年は、全国27事業所において525人の従業員が参加しています。

❖ 「子ども110番の家」へ協力

「子ども110番の家（ピーボクんの家）」とは、児童が身の危険を感じたときに駆け込み、援助を求められる民家や商店のことです。昨今の子どもの狙う悪質な犯罪防止のため、各地域で行われている取組みで、当社の一部の事業所、関係会社がこの取組みに協力しています。



天満天神繁昌亭の設立支援

エスペックの本社は、800軒の店が立ち並び日本一長い商店街「天神橋筋商店街」のすぐそばにあります。毎年夏になりますと、当社周辺は日本三大祭の一つ「天神祭」で大賑わいをみせるのですが、2006年9月、その「天神祭」の舞台である大阪天満宮の敷地内に落語専門の定席「天満天神繁昌亭」がオープンしました。この「天満天神繁昌亭」は、戦前には八軒もの上方落語の寄席があったこの地域に、再び寄席を復活させ、街の活性化と上方芸能文化の継承・発展を目指して設立されたもので、当社もこの想いに共感し、設立のための資金援助をさせていただきました。現在繁昌亭では、毎日、ベテランから若手まで落語家が入れ替わり登場し、大勢のお客さんと連日賑わっています。今後も地域のみなさまとともに、ここ天神橋筋商店街の活性化や、文化の発展に貢献していきたいと考えています。



天満天神繁昌亭



総務部 総務グループ マネージャー 平尾 洋

環境パフォーマンス

地球環境のために、
私たちができること。



神戸R&Dセンターのビオトープでくつろぐカルガモ

エスベックは「環境先進企業」の実現に向け、第3次環境中期計画「エスベック2010グリーンプラン」を策定。いかに地球環境に役立つかという視点で、グリーンプロダクト、グリーンプロセス、グリーンマインド、グリーンアクションの4つの取組みを、総合的に進めています。

環境マネジメント

「さすが」と言われる環境先進企業を目指し、
全社を挙げて環境マネジメントに取り組んでいます。

環境経営の基本方針

エスベックは、「エスベックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスベックたるゆえんである。」という環境宣言を掲げ、真摯に環境に取り組んでいます。

1996年4月には、全社環境基本方針を定め、これ以降、世の中の動向、ステークホルダーのみならずからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。2007年度は、地球温暖化の防止、資源循環の促進、ならびに環境への汚染防止の3つを大きなテーマとして掲げています。

環境管理推進体制

エスベックは、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、ISO14001認証取得を積み重ね、主要9事業所で活動してきましたが、環境ガバナンスの強化を図るため、2003年度からは、国内グループ5社28事業所による全社一括活動に移行しました。グループ会社の解散に伴い、2007年度からは、下記の3社における31事業所で全社一括活動を進めると同時に、下記の4社5事業所では、単独で環境マネジメント活動を進めています。

■全社一括取得の対象範囲

- エスベック株式会社
- エスベックエンジニアリング株式会社
- エスベックテストセンター株式会社



■単独取得事業所

取得年月日	事業所
2000年12月 1日	広州愛スベック環境機器有限公司
2003年 3月12日	エスベックテクノ株式会社
2004年 7年 8日	エスベック九州株式会社 大分支社
2004年 8月 4日	エスベック九州株式会社 本社
エコアクション21取得事業所	
2005年 4月27日	エスベックミック株式会社

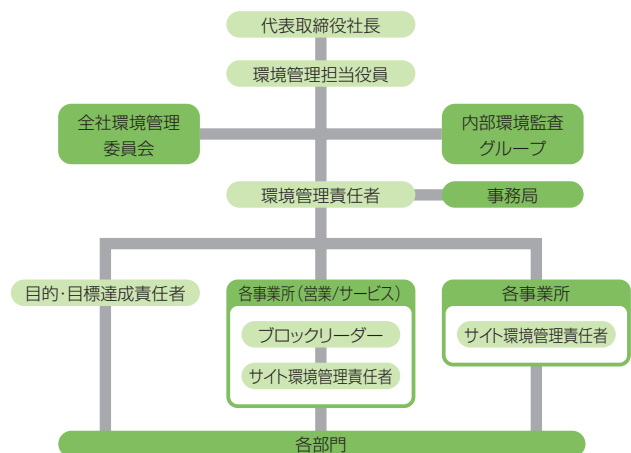


2007年度環境方針

全社環境管理委員会

エスベックでは、環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、環境マネジメント活動が推進されます。

■環境マネジメント活動の組織図



第3次環境中期計画 「エスベック2010グリーンプラン」

2005年、エスベックは、2010年度へ向けた取組みの指標として、第3次環境中期計画「エスベック2010グリーンプラン」を定めています。主なテーマとして、「地球温暖化の防止」、「資源循環」、「有害物質削減」、「社会貢献」の4つのテーマを掲げ、その実現に向け「グリーンプロダクト」、「グリーンプロセス」、「グリーンマインド」、「グリーンアクション」の4つの取組みを進めています。

重点テーマ	「エスベック2010グリーンプラン」2010年度目標値
地球温暖化の防止	1990年度比、CO ₂ 10%削減
資源循環	①ゼロエミッション100% ②使用済み製品回収率50%
有害物質削減	①製品:新規開発製品のRoHS対応100%完了 ②部品:標準製品群を対象にAランク(社内基準)の市販部品を100%対応
社会貢献	社会貢献度200%(2005年度:100ポイントの2倍/独自指標)

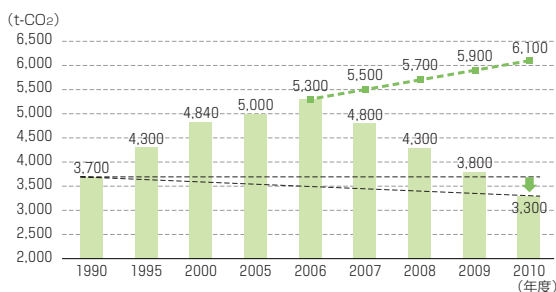
CO₂削減のための取組み

環境中期計画「エスベック2010グリーンプラン」の中で最も力を入れているのが、地球温暖化の防止です。事業の拡大に伴い、エスベックのCO₂排出量(*1)は、1990年度の3,700tから、2006年度の5,300tへと1.4倍に増加しています。さらに、当社は今後も一層の成長を計画しており、現状のままで試算すると、2010年度には6,100tへの増加が予想されます。

エスベックは、2010年に1990年度比10%削減を目標に掲げており、下記の改善活動と自然エネルギーの活用などにより、3,300tまで大幅な削減を計画しています。

- ①ソーラー発電等の自然エネルギーの活用
- ②省エネ設備、ハイブリッドカー等の高効率設備の導入
- ③生産工程の見直し
- ④排出権など京都メカニズムの採用

■環境中期計画(CO₂排出削減計画)



目標と実績

No.	2010年度環境目的
1	環境配慮型製品、環境配慮モジュールを開発します
2	RoHS対応(*2) 2009年度までに、 ①製品:新製品は100%対応します ②部品:標準5製品群(プラチナスシリーズ、冷熱衝撃装置TSA、小型環境試験器、パーフェクトオープン、ビルドインチャンバー)を対象に、Aランクの市販部品を100%対応します
3	環境配慮型製品を年間5,000台以上販売します
4	お客さま環境満足度の向上を図るため、お客さまの声をフィードバックします
5	使用済み製品の回収率を50%以上にします
6	使用済み製品のリセールを促進します
7	国内全事業所において、排出物リサイクル率100%を達成し、ゼロエミッションを実現します
8	グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を90%以上とします
9	グリーン購入比率の向上を図るため、文具のグリーン購入比率を99%以上とします
10	CO ₂ の排出量を1990年度比10%削減します(*1) (2006年度:5,300t→2010年度:3,300t)
11	物流部門におけるCO ₂ を20t削減します
12	国内外で植樹を実施します
13	環境マネジメント支援を実施します (ISO14001、エコアクション21、エスベックエコスタンダード) ①グリーンパートナー(取引先・代理店)の育成 ②取引先への環境マネジメント支援に伴うCO ₂ 削減100t
14	従業員のみならずご家族の方へ向けて環境啓発活動を推進し、CO ₂ を35t削減します
15	神戸R&Dセンターの森とビオトープを生かした環境教育の空間の充実を図ります
16	宇都宮テクノコンプレックスのフューチャーラボを生かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者を500人以上誘引します
17	全事業所での紙・ゴミを削減します

*1: 適用範囲は、国内エスベックグループISO14001全社一括取得の企業から、受託試験事業を除いたものとする。
*2: 2007年3月現在、当社製品はRoHS規制対象製品ではありません。

2006年度環境目標と実績		評価	2007年度環境目標	重要テーマ
<p><目標>LCA手法の採用、LCAによる環境負荷の基準値の確定 <実績>実施</p>	○	<p>植物由来プラスチックの使用検討によりCO₂を削減します (2007年度製品搭載開始)</p> <p>省エネ製品、省エネモジュールを開発します (DCインバータ冷凍機モジュールの開発)</p> <p>ノンフロン製品・モジュールを開発します (空気サイクル冷凍モジュールの開発)</p> <p>グリーンコンセプトチャンバーを企画します (開発ロードマップの作成)</p>	地球温暖化の防止 資源循環	有害物質削減
<p><目標>主力製品の使用部品のRoHS対応品への切り替え <実績>①RoHS情報登録手順の取決め・部品データベース ②新規開発用部品のRoHS調査実施</p>	△	<p>新機種シリーズの市販部品において80%RoHS対応します</p>	地球温暖化の防止	有害物質削減
<p><目標>4,350台以上販売 <実績>4,800台以上</p>	◎	<p>環境配慮型製品を4,500台以上販売します</p>	地球温暖化の防止	有害物質削減
<p><目標>改善提案10件以上 <実績>情報収集100件、改善提案14件</p>	◎	<p>お客さまから環境に関する声を100件以上収集し、 社内へ改善提案として10%以上フィードバックします</p>	地球温暖化の防止	有害物質削減
<p><目標>エスベックリサイクルシステムの構築 <実績>広域認定申請中(2007年3月)</p>	△	<p>①広域認定制度の運用を開始します ②使用済み製品回収率を10%とします</p>	地球温暖化の防止	有害物質削減
<p><目標>中古製品の計画台数の販売 <実績>達成</p>	○	<p>中古製品販売額を前年度比3%向上します</p>	資源循環	有害物質削減
<p><目標>福知山工場 排出物リサイクル率98% <実績>97%</p>	△	<p>福知山工場の排出物のリサイクル率を98%とします</p>	資源循環	有害物質削減
<p>(目標値設定は2007年度から開始)</p>	—	<p>①2006年度の仕入高上位100社をエスベックグリーン調達取引先として 認定します ②上位100社以外で「環境への影響が大きい」取引先5社に対して、 エスベックグリーン調達取引先として認定します</p>	地球温暖化の防止	有害物質削減
<p><目標>グリーン購入比率90%以上 <実績>92%</p>	○	<p>文具のグリーン購入比率を95%以上にします</p>	地球温暖化の防止	有害物質削減
<p><目標>生産部門におけるCO₂100t削減 <実績>93.8t削減</p>	△	<p>生産部門における省エネ活動を通じCO₂の排出量を100t削減します</p> <p>事務部門においてガンリン購入量・電力使用量を削減し、CO₂の排出量を 100t削減します</p> <p>自然エネルギーの活用によりCO₂の排出量を240t削減します</p>	地球温暖化の防止	社会貢献
<p>(目標値設定は2007年度から開始)</p>	—	<p>モーダルシフトの試験運用を行い、CO₂排出量を10t削減します</p>	地球温暖化の防止	社会貢献
<p>(目標値設定は2007年度から開始)</p>	—	<p>中国植樹の候補地選定および、国内植樹の契約締結で社会貢献を強化します</p>	地球温暖化の防止	社会貢献
<p><目標>代理店への環境マネジメント支援 2社以上 <実績>3社</p>	◎	<p>取引先さまへの環境マネジメント支援によりCO₂の排出量を10t削減します</p> <p>①代理店への環境マネジメント支援を2社以上実施します ②大東市のEMS規格を支援します</p>	地球温暖化の防止	社会貢献
<p>(目標値設定は2007年度から開始)</p>	—	<p>家庭への環境啓発活動によりCO₂の排出量を20t削減します</p> <p>①家庭グリーン購入への資金援助と実績評価 ②環境啓発の推進 ③エコライフガイドラインの作成による環境啓発の強化</p>	地球温暖化の防止	社会貢献
<p><目標>施設来訪者85人以上 <実績>88人</p>	○	<p>環境大会等を通じた社員向け教育の実施で、200人以上に環境啓発します</p>	地球温暖化の防止	社会貢献
<p><目標>施設来訪者450人以上 <実績>473人</p>	○	<p>市民への環境啓発活動として宇都宮テクノコンプレックスのフューチャラポ の来場者を400人以上誘引します</p>	地球温暖化の防止	社会貢献
<p><目標>本社(代表事業所)にて ①排出物、②ガンリン、③電力、④事務用紙を各1%削減 <実績>達成</p>	○	<p>①ペーパーレスの促進により社内外で使用する紙を約50万枚削減します ②「見える化」の促進を実施します</p> <p>コミュニケーションツール(取扱説明書・仕様書・サービスマニュアル)の革新 で、使用する紙を50%削減します</p>	資源循環	社会貢献

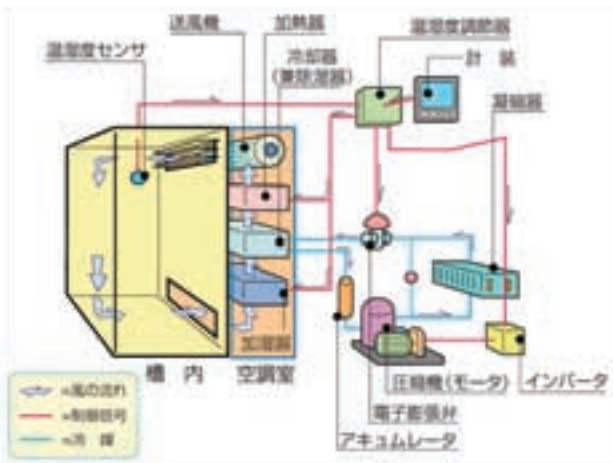
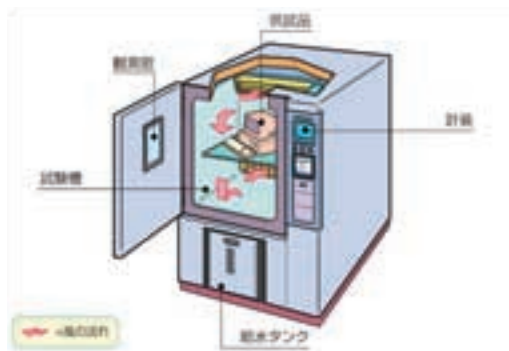
◎：大きな成果 ○：計画に沿った成果 △：計画を下まわる、または計画から外れる成果

グリーンプロダクト (環境に配慮した製品とサービス)

「環境配慮開発設計ガイドライン」に基づいてトータルな環境性能の向上を図っています。

エスペック製品の環境的側面

エスペックの主力製品「環境試験器」は、金属の内外槽、ウレタン断熱材、電気・機械部品などで構成されており、人工的に環境を再現するのに、HFCフロンを用いた冷凍回路と電気ヒーターとのバランスで温湿度を制御しています。



この環境試験器が地球環境に与える影響は、

- 運転時の電力消費による地球温暖化
- HFCフロンが大气放出された場合の地球温暖化
- 製品廃棄時の廃棄物処分場圧迫

などが挙げられ、改善点を多く抱えています。



環境配慮型製品創出への取組み

製品開発の基本的な考え方

エスペックは、「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、お客さまや社会のお役に立つ製品、安全・品質・価格・環境・納期のすべてを満足する製品を開発し続けています。

開発設計ガイドラインの主な内容

- 製品ごとの環境目標値
- 資源投入～加工～使用～廃棄の全ライフサイクルの環境アセスメントの実施指示
- 「環境デザインレビュー」の実施指示
- 経営層による環境面評価、量産、出荷可否判断
- 使用推奨素材の指定、使用禁止物質の指定

2006年度は、LCAソフトを導入し、現行主力製品の環境への負荷の評価を開始しました。この調査結果を今後の製品開発へ生かしていく予定です。

リサイクルへの取組み

金属でできた外装と内槽との間にウレタン断熱材を施した従来製品は、解体が困難であり、廃棄物処分場に負担をかけています。エスペックでは開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体しやすい構造
- 樹脂部分の材質マーキング

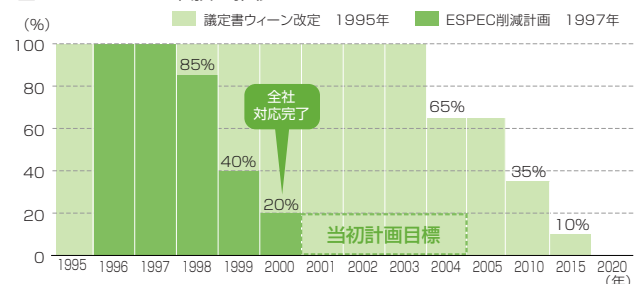


などを新規開発品・モデルチェンジ品に順次適用しています。

冷媒フロンへの取組み

エスペックでは、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフロンへの転換を進めました。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、2000年秋、当社製品の冷凍回路のHFC転換を完了させています。

■HFCフロンへの転換の推移



化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けての取組み

エスペックでは、製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

昨今話題となっているRoHS指令における6品目の有害物質については、2007年3月現在、当社製品はRoHS規制の対象製品ではありませんが、自主的にRoHS対応部品への代替化を進めています。

アスベスト対応

エスペックでは、過去の製品において、断熱材やパッキンの一部に、アスベストを使用していた時期があります。2007年までに、全ての製品において、アスベストの使用を取止めました。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さまに対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて積極的に情報を公開しています。

PRTR

エスペックでは、約300種類の危険有害化学物質を使用しています。(当社基準に基づく選定)。これらに対し、MSDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準:1kg以上を集計単位として管理しています。また、お客さま先での作業に伴う化学物質の使用についても集計しています。

2006年度、法的報告義務である1t以上の取扱量になる事業所はありませんでした。

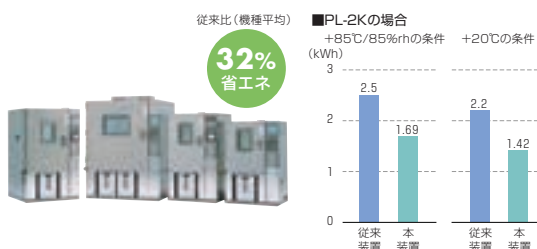
2006年度 全社PRTR実績

事業所内	(自主測定)				
	(t) 事業所外			(t)	
第1種指定化学物質の名称	HCFC-225	トルエン	ヒドロジン	HCFC	OFC
第1種指定化学物質の号番号	144	227	253		
年間取扱量	0.17	0.75	0.04	3.20	0.009
製品への含有分(自主測定項目)	—	—	—	2.90	—
リサイクル分(売却分)(自主測定項目)	—	—	—	—	—
排出量	イ) 大気への年間排出量	0.17	0.71	—	0.04
	ロ) 公共用水域への年間排出量	—	—	—	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出(二)以外	—	—	—	—
移動量	ニ) 当該事業所における埋立処分	—	—	—	—
	イ) 下水道への移動	—	—	0.04	—
	ロ) 当該事業所の外への移動(イ)以外	—	0.04	—	0.01

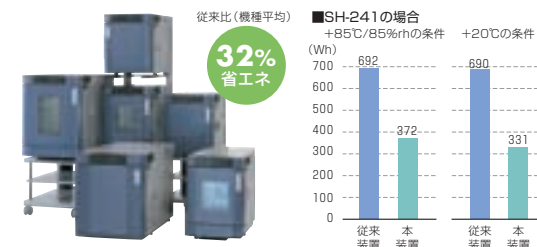
環境配慮型製品

エスペックでは、1996年より製品の消費電力削減を重要テーマと掲げて取組み、数々の省エネ製品を開発してきました。

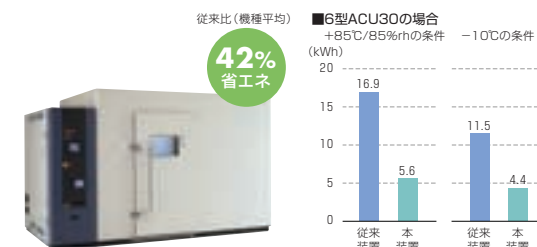
恒温恒湿器 プラチナスKシリーズ



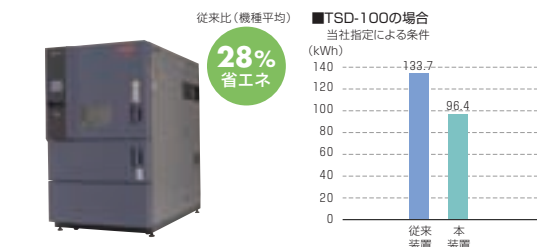
小型環境試験器シリーズ



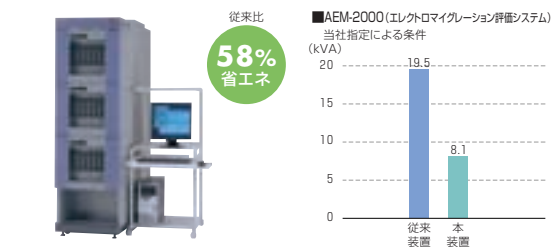
恒温恒湿室 ビルドインチャンバー



冷熱衝撃装置シリーズ



計測システムシリーズ



※上記の各数値は単位時間あたりの比較で、あくまでも参考値です。

グリーンプロセス (環境に配慮した工程)

製造プロセスにとどまらず、営業・サービス・物流など、すべてのプロセスで環境に配慮した取組みを進めています。

営業での取組み

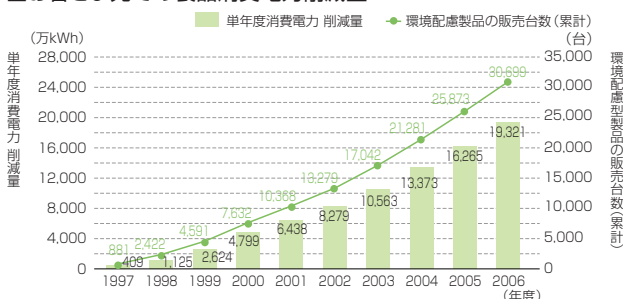
エスペックは、環境負荷の大きい工場はもちろん、営業所など全事業所で環境マネジメント活動を行っています。

営業部門における環境マネジメント活動は、

- 環境に関するお客さまの声を積極的に聞き、製品・サービスに活かす。(インプット)
- 環境に配慮した製品・サービスをお客さまに提供する。(アウトプット)

であると考えています。エスペックは、環境に配慮した製品をお客さまへ提供することを通じ、お客さま先での環境への負荷の低減に努めています。グラフは、環境配慮型製品の拡販実績と、これに伴うお客さま先での電力消費量の削減効果です。

■お客さま先での製品消費電力削減量



サービスでの取組み

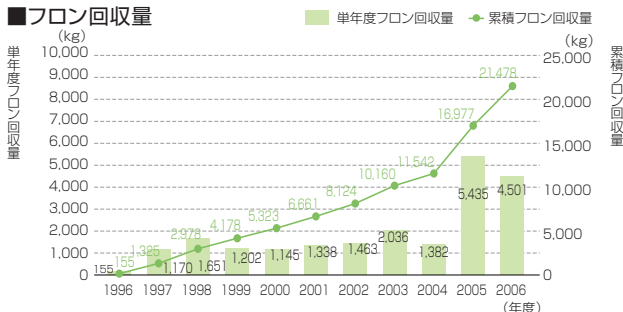
▶ フロン回収

エスペックエンジニアリング株式会社は、1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。フロン回収破壊法に基づく第一種フロン類回収業登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。

その回収量はお客さまのご理解も得られ、21tにも及びます。(2007年3月現在累積値)

超低温領域である-70℃や-100℃を再現するには低沸点冷媒フロンが使用されています。この低沸点冷媒フロンについては、2002年3月「低沸点冷媒回収装置」を独自に開発。2002年度より各サービス拠点に配置し、低沸点冷媒の回収を行っています。

■フロン回収量

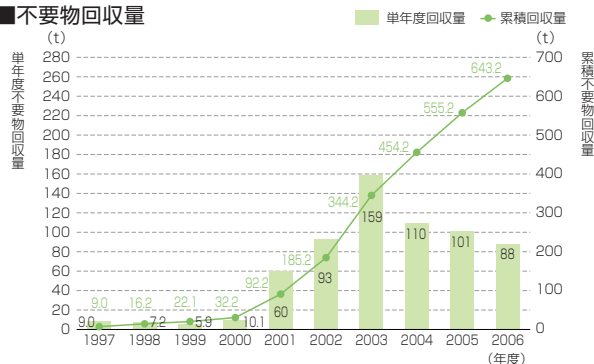


▶ 不要物回収

エスペックエンジニアリング株式会社では、お客さま先で行った保守・修理業務時に発生する不要物を全て持ち帰り、自社内で分別・適正処理するシステムを運用しています。その回収量は643tになります。

(2007年3月現在累計)

■不要物回収量



物流での取組み

▶ 資材調達時の取組み

エスペックは、仕入先さまからの資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、仕入先さまと共同して、通い箱化を進めています。また、緩衝材などは、いったん社内保管し、再利用しています。これらの取組みにより、廃プラスチックの量を削減することができました。

▶ 製品輸送時の取組み

ダンボール梱包

エスペックは製品をカバーする樹脂製袋の厚みを極限まで薄くしました。梱包材についても、木枠梱包を見直し、

- 重量物用ダンボール梱包の開発 (特許2件公開中)
- 輸送業者との連携による裸 (梱包なし) 輸送

を実施しています。これらの取組みにより、森林資源の保護、有害物質の削減に努めています。ダンボール梱包



モーダルシフト

エスペックは、従来、国内においてトラックによる製品配送を行っていましたが、地球温暖化を防ぐためにいわゆるモーダルシフト (鉄道輸送の活用) を始めています。

事業所での取組み

事務用紙の削減活動

エスペックは、大切な森林資源を守るために、事務用紙の削減に取り組んでいます。

2006年度は、使用済み用紙の裏面利用や縮小・両面コピーを定着させると同時に、社内配布資料の配布先見直しをさらに進めることで、事務用紙の購入量は1,030万枚と、2005年度の1,100万枚から約70万枚削減することができました。

■事務用紙購入量



グリーン購入の促進

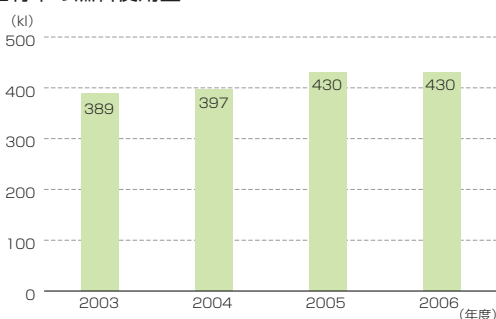
エスペックは事務用品だけでなく、OA機器、衛生用品などについてもグリーン購入を推進しています。

2006年度は活動範囲を本社1社から、国内全ての30事業所に広げました。これに伴い、事業所にかかわらず誰でも簡単にグリーン対応品が選択・購入できるように、社内の物品購入WEBシステムに、グリーン対応品コーナーを設けるなど、購入率92%を達成しました。

事業所のガソリン

営業車、サービスカーなど、社有車の使用に伴う、CO₂の排出量は全体の約20%を占めています。ハイブリッド車など、低燃費車への切り替えを順次進めるとともに、エコドライブ講習会を開催するなど、燃料の低減に努めています。

■社有車の燃料使用量



外部評価

日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」の受賞

2005年6月、エスペックは「第3回日本環境経営大賞 環境経営優秀賞」を受賞しました。

日本環境経営大賞とは、日本環境経営大賞表彰委員会および三重県が主催、環境省、経済産業省、財団法人社会経済生産性本部などが後援している表彰制度です。

この表彰制度では、環境経営のさらなる普及、発展を図り、「持続可能な社会」への転換を促進していくことを目的として、優れた成果をあげている企業やNPOなどの団体を顕彰しています。



授与式

環境経営度調査

エスペックは、日本経済新聞社主催の「2006年度環境経営度調査」で、154位に評価されました。

■環境経営度調査実績

年度	ランク
2001年度	14位
2002年度	32位
2003年度	37位
2004年度	94位
2005年度	67位
2006年度	154位

コミュニケーション

エスペックは、お客さまや事業所周辺住民の方々をはじめとするステークホルダーと積極的にコミュニケーションしています。

2006年度は53件と、アスベストに関するお問合せが多かった2005年度の1,500件から大幅に減りましたが、製品の有害物質に関する質問を中心に多くのお問合せをいただきました。

グリーンマインド(環境教育)

「もったいない精神」を核に、
環境を大切にする意識と人材・風土づくりを進めています。

エスペック環境強化週間

エスペックは、1997年より、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスペック環境強化週間」に設定しています。

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的とし、全従業員、お取引さまならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わる各種取り組みを行っています。

2006年度は、「環境改善提案」、「環境功労表彰(部門・個人)」、「環境写真コンテスト」、「環境ポスターコンテスト」等の各種表彰、地域清掃活動、観察会などを実施しました。

環境ニュース

エスペックは、従業員向けの環境啓発活動の一環として、環境ニュースを発行しています。ここでは主な環境関連行事や各事業所の環境保全活動の事例紹介などを行っています。最近の話題はやはり地球温暖化対策です。昨年は特集コラムとして「地球温暖化とわたしたちの暮らしの関係について」を掲載しました。



環境ニュース

エスペックの森・ビオトープ

「エスペックの森」は、(財)国際生態学センター研究所所長(横浜国立大学名誉教授)宮脇 昭博士のご指導のもと、幼苗植栽手法により土地本来の潜在自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を実践したものです。

2001年の神戸R&Dセンターでの植樹祭を皮切りに、2004年には松本営業所、2007年には豊田試験所での植樹祭と、全国各地でエスペック社員とその関係者の手による森づくりを通じた環境教育を実施しています。

これまでに延べ1,100人の手により、約31,000本の苗木を事業所敷地内に植樹しています。



エスペックの森

神戸R&Dセンターに施工されたエスペックのビオトープは、共生ゾーン、せせらぎゾーン、ビオトープゾーンの3つのゾーンから構成されており、従業員や近隣の子供たちが、自然と触れ合い、環境について学べるフィールドとなっています。



エスペックのビオトープ

エスペックの森と
ビオトープに棲む野鳥パンフレット



グリーンアクション(社会貢献)

従業員の家族・取引先・地域社会を対象に、環境面での社会貢献を推進しています。

新エネルギー・太陽光発電の研究

エスペックは、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)との共同事業を通じ、太陽光発電のフィールドテストを実施しています。1995年に宇都宮テクノコンプレックスへ40KW相当の太陽光発電施設を初めて設置して以来、2006年度には神戸R&Dセンター(50KW相当)と福知山工場(50KW相当)にそれぞれ新たに設置し、主要な生産拠点・研究拠点において太陽光発電の長期信頼性を研究するための基礎データの採取を実施しています。



福知山研修センター



神戸R&Dセンター

フューチャーラボ(展示館)の運営

宇都宮テクノコンプレックスでは太陽光発電施設の隣に、「フューチャーラボ」(展示館)を設置。太陽光発電や燃料電池の模型、パネル展示、環境関連文献などに実際に触って体験していただくことができます。



宇都宮テクノコンプレックスのソーラーパネルと展示館

環境フェスティバル

エスペックは自ら環境フェスティバルを開催するとともに地域の環境フェスティバルへも積極的に参加しています。毎年8月には宇都宮テクノコンプレックスで開催するほか、11月には大阪府等が主催する環境フェスティバル、12月には京都府が主催する地域の環境フェスティバルへそれぞれ燃料電池車などを出展しています。



環境フェスティバル(大阪)

ソーラーカー・ラリー クラス優勝

クリーンエネルギーの太陽光発電。エスペックでは、秋田県大潟村ソーラースポーツラインで開催されるワールド・ソーラーカー・ラリーへの参戦を通じ、太陽光発電に関する基礎研究と社会への啓発を行っています。2006年度には、ソーラーカー・ハーフサイズ・ストッククラスにおいて、2度目のクラス優勝をすることができました。



ワールド・ソーラーカー・ラリー

ソーラーカー・ラリーへの参戦について

エスペックでは、2001年から、秋田県大潟村ソーラースポーツラインで開催されるワールド・ソーラーカー・ラリーに参戦しています。2005年からは、ソーラーカーと燃料電池車の2台で出走しています。活動を始めた頃は、ソーラーパネル自体が珍しかったためか、発電のしくみについてのご質問が多かったのですが、最近では、ご家庭の屋根に設置される方も多くなり、温暖化対策のひとつとしても、広く一般の方にその価値が浸透してきたようです。今後もこの活動を通じ、一人でも多くの方に、ソーラーパネルや燃料電池のことを知っていただきたいと考えています。

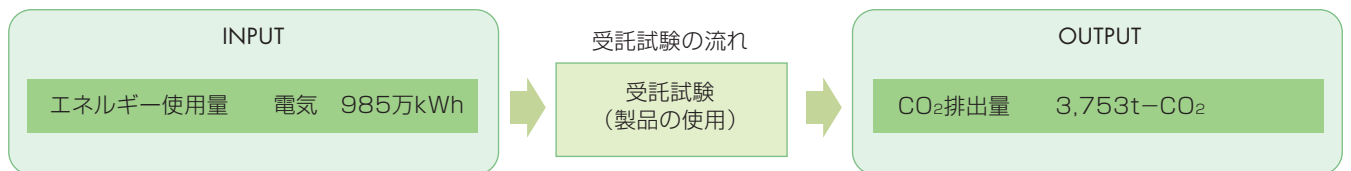
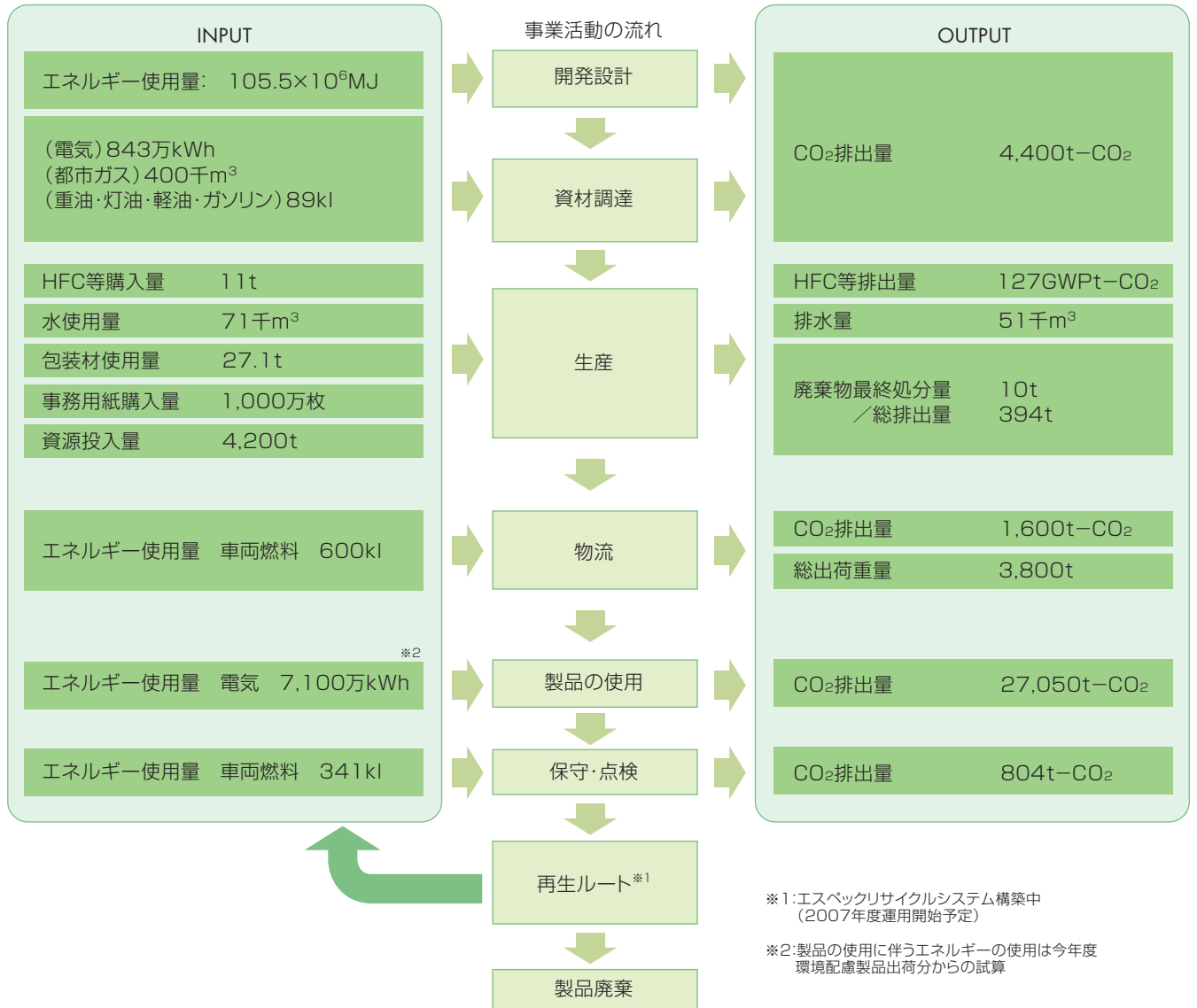
環境管理部 EM推進グループ 上杉哲夫



(前列右から2人目が私です)

物質フロー

事業活動による物質/エネルギーの投入/排出量を物質フローで把握し、環境負荷の低減に努めています。



■算出根拠

換算係数	原油換算 (KL)	熱量換算 (KJ)	CO ₂ 換算
① 電力	1kWh=1kl	1kWh=10250KJ	1kWh=0.381kg-CO ₂
② ガス	10千m ³ =10.2kl	1kl=38,759,690KJ	1m ³ =2.15kg-CO ₂
③ 石油	灯油×0.96	1kl=37,209,302KJ	1kl=2.53t-CO ₂
④ ガソリン		1kl=37,209,302KJ	1kl=2.36t-CO ₂
⑤ 軽油		1kl=37,209,302KJ	1kl=2.64t-CO ₂

実績データ

ISO14001一括取得の30事業所について
環境負荷を把握し、削減に努めています。

■サイト別データ(2006年度実績)

	エスベック 本社	福知山 工場	宇都宮 テクノ コンプレックス	神戸R&D センター	エスベック エンジニアリング 本社	全国の営業所・ プラント等23 事業所合計	刈谷・横浜試験所 合計	ISO14001 一括取得 対象事業所合計 (30サイト)
地域区分	商業地域	工業専用 地域	工業専用 地域	準工業地域	準工業地域	—	—	—
主な業務・ 生産物	環境試験器・ 電子デバイス装 置の販売、開発、 設計ならびに資 材・部品の購買 業務	環境試験器・ 電子デバイス 装置	電子デバイス 装置	技術開発拠点 および 受託試験	環境試験器・ 電子デバイス 装置等の メンテナンス (点検・保守)	環境試験器・ 電子デバイス 装置の販売、 メンテナンス (点検・保守)	受託試験、 製品レンタル	—
排出物の発生量 (総量)	21.5t	381.3t	12.8t	33.9t	16.3t	92.5t	1.3t	559.4t※
産業廃棄物量	—	164.1t	8.1t	22.6t	7.5t	74.7t	0.4t	277.4t
事業系一般廃棄物量	21.5t	82.4t	4.6t	2.7t	2.3t	16.7t	1.3t	131.5t
電力	86万kWh	379万kWh	308万kWh	316万kWh	18万kWh	64万kWh	617万kWh	1,788万kWh
事務用紙購入量	274万枚	246万枚	26万枚	80万枚	25万枚	375万枚	6万枚	1,031万枚
ガス使用量	39,866m ³	277,017m ³	—	81,424m ³	37m ³	3,108m ³	15m ³	401,467m ³
社有車保有台数	12台	6台	12台	5台	17台	165台	2台	219台
うち、ハイブリットカー	2台	—	1台	—	1台	7台	—	11台
燃料使用量 (ガソリン)	23.7kl	10.6kl	25.6kl	5.3kl	22.1kl	332.0kl	1.7kl	421.1kl
燃料使用量 (軽油)	—	—	—	—	—	7.9kl	—	7.9kl
走行距離	280,954km	100,173km	225,105km	60,540km	220,152km	3,546,950km	25,482km	4,459,356km
遵法への対応 (騒音など)	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
地域からの クレームなど	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし

※お客さま先での作業発生分を含む。

環境会計

■2006年度環境会計

集計範囲: エスベック株式会社、エスベックエンジニアリング株式会社
 対象期間: 2006年4月1日～2007年3月31日

■環境保全コスト

(千円)

分類	主な取組の内容	2005年度		2006年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）	2,201	43,879	65,430	69,881
内 訳	①公害防止コスト	—	3,517	—	2,706
	②地球環境保全コスト	2,201	23,068	65,430	27,313
	③資源循環コスト	—	17,169	—	39,861
(2)	生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（上・下流コスト）	—	—	—	—
(3)	管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）	—	77,081	—	73,861
(4)	研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）	—	662,501	—	388,384
(5)	社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）	—	33,068	—	24,040
(6)	環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）	—	—	—	—
	合計	2,201	816,404	65,430	556,165

(千円)

項目	内 容 等	2005年度	2006年度
当該期間の投資額の総額		372,719	584,264
当該期間の研究開発費の総額		1,549,960	2,273,114

■環境保全対策に伴う経済効果

(千円)

効果の内容		金額
収益	リサイクルにより得られた収入額	7,877
費用削減	省エネルギーによる費用削減	126,300

■環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を表す指標		
		指標の分類	指標の値	
(1)	事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2005年度	2006年度
		発生総量 (万kWh)	842	843
		削減量(対前年比) (万kWh)	(26.0)	(1.0)
		原単位(万kWh/億円)	2.5	2.48
		原単位での削減率(対前年比) (%)	-6.4%	1%
(2)	事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2005年度	2006年度
		発生総量 (t)	27.0	20.3
		削減量(対前年比) (t)	(2.3)	6.7
		原単位 (kg/億円)	81.4	59.6
		原単位での削減率(対前年比) (%)	-12.8%	27%
		売上高(単純合算) (億円)	331.6	340.4

注1.()付きの値は増加分
 注2.電力は、生産部門+事務所電力の合計
 注3.廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計

❖ エスペック環境写真・ポスターコンテスト

エスペックでは、1997年より「エスペック環境強化週間」を設け、従業員などへの啓発活動を行っています。その一環として、2005年度からは環境写真・ポスターコンテストを実施。従業員はもとより、お取引先さまやそのご家族からご応募いただいています。

2006年度 上位受賞者作品

【環境写真部門】 テーマ:生(せい)



大賞 「Hi!」
エスペック株式会社 神戸R&Dセンター 管理グループ
福田 久美さん



優秀賞
「雪ワライチゲ」
昌立工業株式会社
久保 紀一さん



優秀賞 「群生(鳥)」
西日本富士電機株式会社
石道 英生さん



優秀賞 「たくましく生きる」
オオヨド急運株式会社
野島 よりみさん

【環境ポスター部門】 テーマ:地球温暖化/資源循環/汚染の防止/自然の保護



優秀賞
「資源を大切に」
エスペック株式会社
資材調達部 調達供給グループ
四方 浩昭さん ご家族



優秀賞
「育てよう。緑の世界」
オオヨド急運株式会社
小川 洋子さん



優秀賞
「環境保護」
オオヨド急運株式会社
田丸 公子さん

編集後記

環境マネジメントレポートとして7冊発行し、2005年から本誌がCSRレポートとなって、今回で3冊目となります。今回のCSRレポートでは、エスペックが重点的に取り組んでいるCSR活動の特集記事としてご紹介したほか、担当社員からのメッセージの掲載、デザインの一変など、読者のみなさまにとって、より親しみやすく分かりやすいものになるよう、リニューアルを行いました。

今後もみなさまからのご意見・ご要望に真摯に向き合い、一層の充実を図ってまいります。

みなさまからの忌憚のないご意見をお待ちしております。

お問合せ先

エスペック株式会社 総務部・環境管理部

〒530-8550

大阪市北区天神橋3-5-6

電話:06-6358-4754

FAX:06-6358-3511

E-MAIL:csr@espec.co.jp



本冊子の印刷には、環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6

Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500